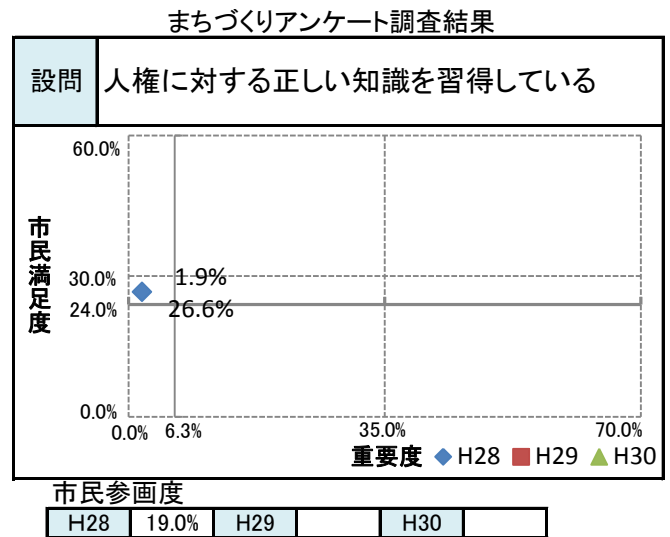
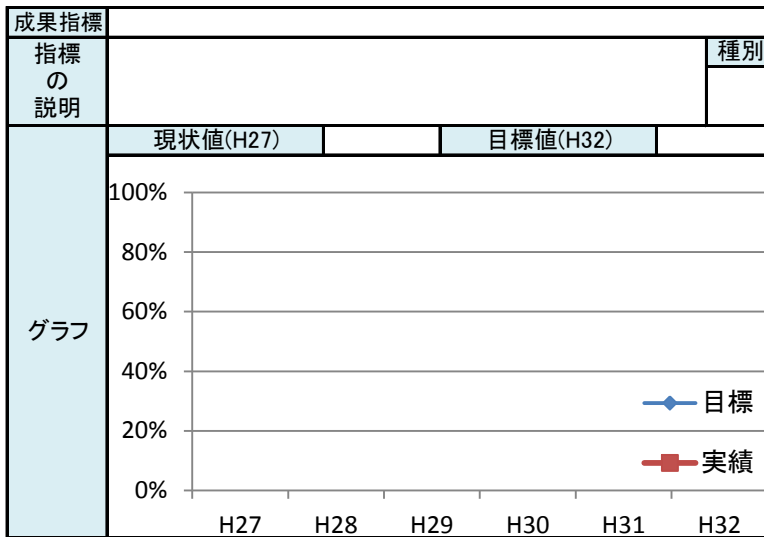




「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(4,865人)とH27現状値(4,838人)から27ポイント増となり、H28目標値(4,850人)を15ポイント上回った。その要因は、市民の人権意識が徐々にではあるが向上してきたことである。しかしながら、各地区における人権リーダーの育成を図ることが課題であり、懇談会未実施の地区に対する働きかけが課題である。
	指標2は、H28年度実績値(11人)とH27現状値(13人)から2ポイント減となった。H28目標値(14人)より3ポイント下回った。定期的な人権相相談の周知に努めたが、人権についての相談はしにくいという要因から、きめ細かな周知と丁寧な取り組みに努めることが課題である。 しかし、LGBTの人権問題については偏見が根強く、市民への更なる理解促進が必要であり、また、当事者からの専門的な相談に対応するため、今後は専門の相談員の育成が課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
人権啓発の推進 市民一人ひとりが、人権の問題を自らの問題とするために、人権リーダーの育成事業や情報提供・研修会等を行っているが、各地域から割り振られた人選であるため、地元で根ざした人権問題の取り組みが継続していないことが課題である。	市民一人ひとりのところに届く、講座や研修会等をさらに工夫していくとともに、行政からの一方的な働きかけではなく、市民からの主体的な取り組みによる開催となるように、地元で根ざした人権リーダーの育成に努める。そのために、各自治会などの協力を得ることができるようきめ細かな説明や情報提供を実施する。	14,899 千円	→
人権擁護と救済 市全体としての人権相談が少ない現状であり、あらゆる媒体を通しての開設の周知が課題である。また、法務局との連携については、定期的な情報交換の体制整備が課題である。	LGBTの課題に対応した相談体制の構築を検討し、広報やあらゆる媒体を通して市民に開設日の周知を図る。また、法務局との更なる連携を図り、インターネットモニタリングや差別事象・事件の情報の提供を定期的に行う。	0 千円	→
非核平和の推進 戦争経験者の高齢化に伴い、戦争の新しい悲惨さを伝える機会が減少し、平和の尊さの伝承の機会が減少することが課題である。	戦争体験者の思いを受け継ぐために、体験談等を映像化し、あらゆる機会を通して、戦争について考える機会、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える取り組みを行う。	817 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】 人権生活環境部

- ・ 市民一人ひとりが、部落差別の解消に積極的に参画してきた経緯があり、差別解消への展望を持って取り組みを推進します。
- ・ 部落差別の解消の取り組みを他のあらゆる人権問題の解決につなげます。

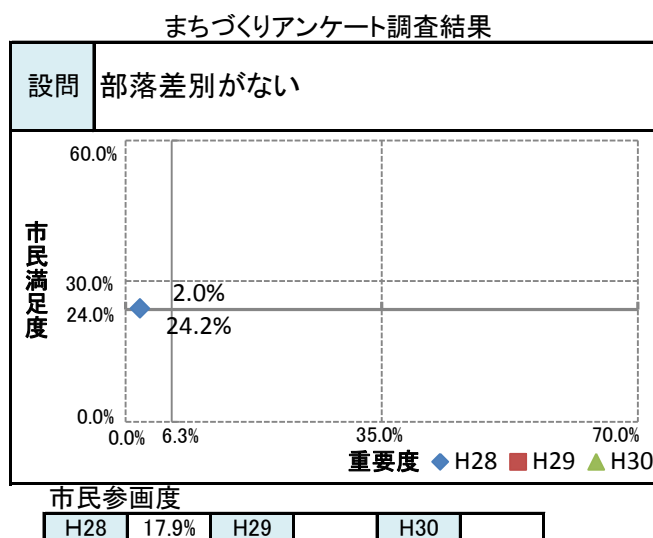
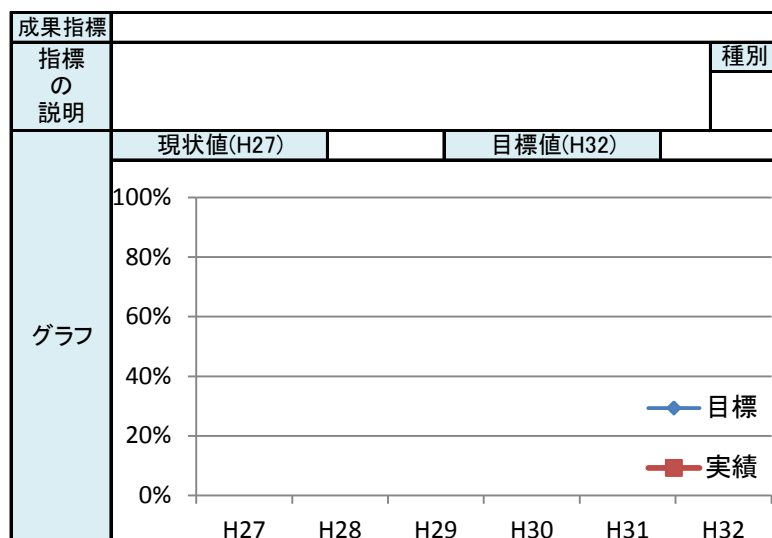
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
同和施策推進計画の推進 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、同和地区の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを一般施策の中で体系的に整理し、実施します。	同和施策推進計画の基になる生活実態調査を実施し、今後の調査分析につなげた。各部署との推進調整及び評価を行う同和施策推進会議や、各課題の施策検討及び研究を行う同和施策推進会議作業部会において検討・協議した。	22,891 千円
		19,652 千円
隣保館・児童館・教育集会所事業 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施します。児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。教育集会所は、社会的背景により、学力・進路保障が不十分な児童生徒に学習の機会を確保し、学力保障に努めます。また、人権同和教育活動及び生涯学習の充実を図ります。	隣保館において人権、生活、福祉など各種相談事業を実施し、関係機関と連携した住民のニーズに応じた自立支援を図った。教育集会所では学力保障や人権同和教育にかかわる取り組みを、児童館においては仲間づくりや世代間交流を実施した。	141,837 千円
		128,778 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	人権大学講座受講者数				人権同和問題に関する学習機会や相談の機会が保たれていると感じている人の割合			
	種別			増	種別			増
指標の説明	人権・同和問題に関する連続講座の受講者数(人)				まちづくりアンケート調査における「はい」「どちらかといえばはい」の回答率(%)			
	現状値(H27)	959	目標値(H32)	1500	現状値(H27)	33.7	目標値(H32)	70.0
グラフ								
	100% 80% 60% 40% 20% 0% H27 H28 H29 H30 H31 H32 63.9% 73.3% 80.0% 86.7% 93.3% 100.0% 63.9% 66.8% 目標 実績				100% 80% 60% 40% 20% 0% H27 H28 H29 H30 H31 H32 48.1% 57.1% 57.1% 71.4% 85.7% 100.0% 48.1% 51.0% 目標 実績			



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(1,002人)とH27現状値(959人)から43ポイント増となり、H28目標値(1,100人)を98ポイント上回った。その要因は連続講座の募集周知と人権同和問題に関する意識の向上が原因である。 数多くの人権リーダー育成のためにはまだまだ受講者数が少ないのが課題である。
	指標2は、H28年度実績値(35.7%)とH27現状値(33.7%)から2.0ポイント増となったものの、H28目標値(40.00%)を4.3ポイント下回ったが、人権問題に関する学習会や相談に関する周知に努めたためである。 さらに、開催場所、講師の選定、周知の方法などを工夫して、多くの市民に参加してもらいやすい手法を検討していく。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
同和施策推進計画の推進 同和問題の早期解決の視点に立った取り組みを進めるため、同和地区の実情や施策ニーズに基づく生活困窮者への対策などを一般施策の中で体系的に整理し、実施する必要がある。	今回の生活実態調査の結果を基に、推進計画の見直しや新たに課題となる部分を分析し、同和施策の推進につなげるため、同和施策推進会議(庁内会議)や同作業部会において問題と課題を掘下げ、効果的で具体的な施策事業について検討します。	20,580千円	→
隣保館・児童館・教育集会所事業 隣保館は、人権啓発の拠点としての人権同和問題に関する事業のほか、各種相談事業を実施します。児童館は、放課後の児童の活動の拠点として、広く仲間づくりや世代間交流事業などを実施します。	隣保館・児童館・教育集会所は地域の生活の拠点として今後も継続して各種事業や生活相談に応じ対応していく。各施設に来て相談する人のみを対象とするのではなく、問題や課題を抱えて潜在している住民に対してこちらから声かけをしていける体制を整える。	108,507千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】 人権生活環境部

・伊賀市パートナーシップ宣誓制度をはじめとする性的少数者への人権保障の取り組みを通して、性の多様性に関する理解を含め、男女の平等意識や共同参画意識を育てていくことで、人権尊重の理念を高め「だれもが輝く男女共同参画社会の実現」をめざします。

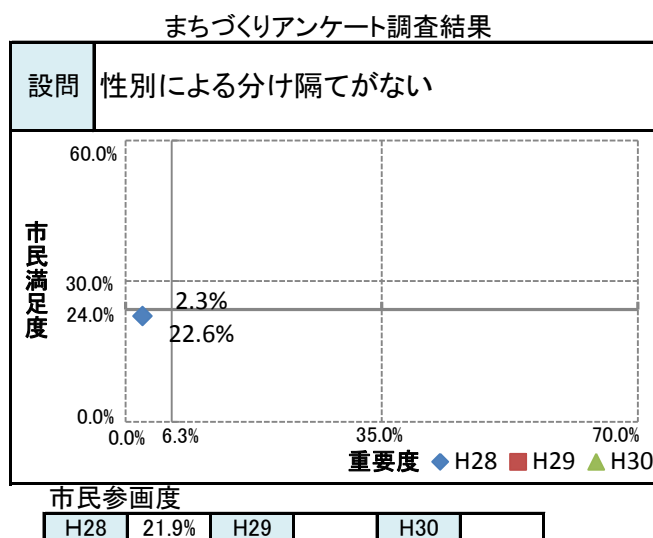
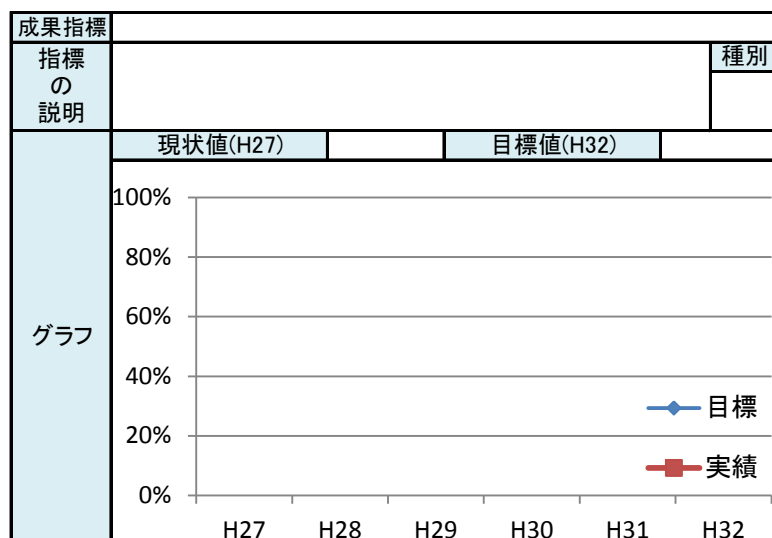
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
男女の参画拡大 政策・方針決定過程への女性登用・参画を促進するとともに、職業生活における女性の活躍促進や地域社会での男女共同参画について啓発に努めます。また、女性のエンパワメントを進め、共同参画の意義や必要性について理解促進に努めます。	男女共同参画フォーラムや女性のエンパワメントを進める連続講座等を開催し、男女の共同参画の理解促進を図った。 また、政策方針決定過程への女性登用推進のため、女性登用率の低い審議会に関するヒアリングを行い、登用率の向上を助言した。	2,259 千円
		1,723 千円
男女の人権尊重 男女平等・共同参画意識を広く市民や事業者浸透させるため、講演会や講座を開催し、啓発・学習の機会を提供します。性別に起因するあらゆる暴力を許さないという意識を高めるとともに、困難を抱える人に対して相談窓口を開設し、法的知識や助言を行います。	小学生の社会見学時に、性別による固定的役割分担意識を払拭していくため、わかりやすい事例を挙げ理解を進めた。 「女性に対する暴力をなくす運動」として、三重県や県内の男女共同参画センターと連携してDV防止の取り組みを行った。	1,166 千円
		1,104 千円
ワーク・ライフ・バランスの推進 事業者に対し、企業訪問やイクボス講座などのセミナー開催時に、働き方改革を通じた、育児・介護休業制度や時間外労働の制限、勤務時間の短縮など、仕事と生活の両立支援にかかる制度の定着及び利用促進について企業訪問やセミナー開催により働きかけます。	伊賀市の管理職で「ハタラクカタ応援宣言」を行い地域への広がりを促した。 人権学習企業等連絡協議会と連携し、「イクボス講座」を実施した。 「男の料理教室」を開催し、男性の家事参加、家庭での男女共同参画を促した。	395 千円
		125 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	審議会等への女性登用率				子育てや介護が男女問わずできるような雰囲気や環境があると思う市民意識調査の割合																																													
指標 の 説明	審議会等の委員のうち女性委員の割合（％）			種別	まちづくりアンケート調査における「はい」「どちらかといえばはい」の回答率（％）			種別																																										
				増				増																																										
グラフ	現状値(H27)	25.7	目標値(H32)	40.0	現状値(H27)	16.8	目標値(H32)	30.0																																										
	<table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>64.3%</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>H28</td><td>62.5%</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>H29</td><td>70.0%</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>H30</td><td>75.0%</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>H31</td><td>85.0%</td><td>25.7%</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td>40.0%</td></tr></tbody></table>				年度	現状値	目標値	H27	64.3%	25.7%	H28	62.5%	25.7%	H29	70.0%	25.7%	H30	75.0%	25.7%	H31	85.0%	25.7%	H32	100.0%	40.0%	<table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>現状値</th><th>目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>56.0%</td><td>16.8%</td></tr><tr><td>H28</td><td>96.7%</td><td>16.8%</td></tr><tr><td>H29</td><td>56.7%</td><td>16.8%</td></tr><tr><td>H30</td><td>63.3%</td><td>16.8%</td></tr><tr><td>H31</td><td>73.3%</td><td>16.8%</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td>30.0%</td></tr></tbody></table>				年度	現状値	目標値	H27	56.0%	16.8%	H28	96.7%	16.8%	H29	56.7%	16.8%	H30	63.3%	16.8%	H31	73.3%	16.8%	H32	100.0%	30.0%
	年度	現状値	目標値																																															
H27	64.3%	25.7%																																																
H28	62.5%	25.7%																																																
H29	70.0%	25.7%																																																
H30	75.0%	25.7%																																																
H31	85.0%	25.7%																																																
H32	100.0%	40.0%																																																
年度	現状値	目標値																																																
H27	56.0%	16.8%																																																
H28	96.7%	16.8%																																																
H29	56.7%	16.8%																																																
H30	63.3%	16.8%																																																
H31	73.3%	16.8%																																																
H32	100.0%	30.0%																																																



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(25.0%)とH27現状値(25.7%)から0.7ポイント減となり、H28目標値(26.0%)を1.0ポイント下回った。その要因は、もともと女性の登用率が低い状態で、2015年に審議会の統合及び定数の見直し(員数減)があり、その結果、女性の占める割合が減ったため。各審議会における女性の登用に対する意識の希薄さ、女性自身の参画意識の低さも課題である。
	指標2は、H28年度実績値(29.0%)とH27現状値(16.8%)から12.2ポイント増となり、H28目標値(17.0%)を12.0ポイント上回った。その要因は、若い層では男女の意識が変化してきて、女性の社会進出が拡大してきたことが要因である。しかし、50歳以上の年代(特に50歳代以上の男性)では、「女性は家事」の意識が根強く残っていることで女性の社会進出の機会が奪われていることが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
男女の参画拡大 女性のエンパワーメントを図ることと並行して、男性の意識改革と理解の促進が必要である。	女性向けの講座の開催と共に、男女が一緒に学べる講座の企画を立案する。 また、地域や職場のあらゆる分野で助言・行動ができる男性の育成に向け、女性活躍推進に関する男性のサポーター連続養成講座を開催する。	1,698 千円	→
男女の人権尊重 男女の人権を尊重しあい、誰もが暮らしやすいと感じる社会にするためには、固定的な性別役割分担意識の払拭が不可欠である。また、「女性に対する暴力をなくす運動」として期間を設けて取り組んでいることを広く周知する必要がある。	家庭や地域において、性別による固定的役割分担意識を払拭していくため、講演会や研修会を実施し、幅広い年代の市民の参加推進に取り組む。 「女性に対する暴力をなくす運動」を数値するために、県内の男女共同参画センターと連携して、県と共にDV防止の取り組みを行う。	1,171 千円	→
ワーク・ライフ・バランスの推進 ワーク・ライフ・バランスの推進は、事業者の理解と積極的な取り組みが必要である。男性の家事自立を推進する必要がある。	企業において積極的にワーク・ライフ・バランスを推進が図られるよう、市の関係部署と連携し「イクボス」の取り組みへの理解促進に努める。 また、積極的に男性が家事に関われるよう、知識等を提供する講座の実施に努める。	475 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

- ・郷土について学ぶ教材を作成し、推進することにより、地域に愛着や誇りを持ち、伊賀の魅力を発信できる子どもの育成をめざします。
- ・地域住民が、地域の学校(園)へ協力したり、参画したいと思えるような魅力ある学校・幼稚園をめざします。

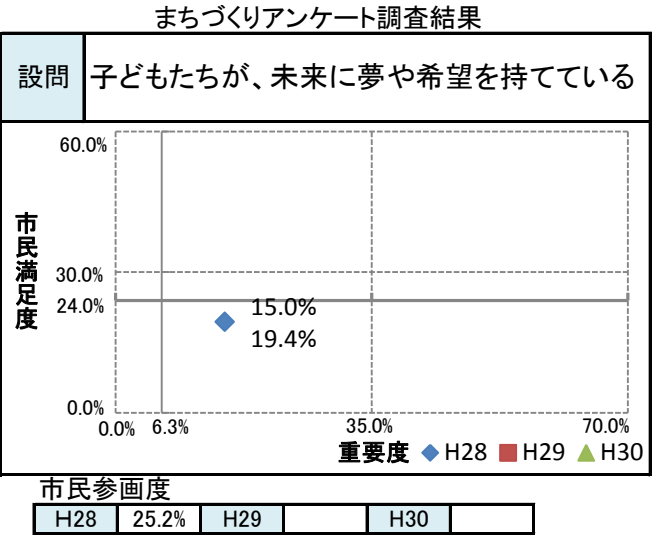
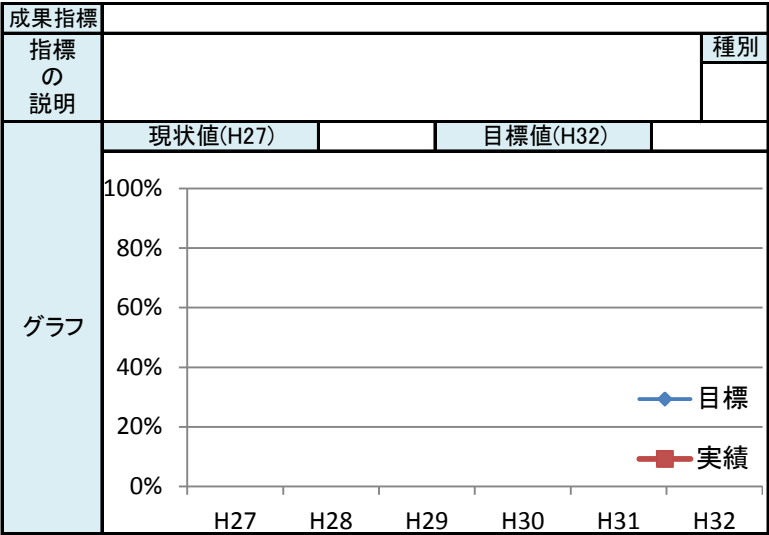
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
地域とともに学校マニフェスト推進事業(学校経営品質向上事業) 確かな学力の保障、人権・同和教育の充実、キャリア教育の推進を3本柱に、子どもたちの自立をめざすために取り組むべき努力目標、具体的な取り組み内容等を学校(園)マニフェストとして作成し、保護者や地域の方に公表し、評価を受け、改善を行い、学校(園)経営の質の向上に努め、保護者・地域に信頼される学校・幼稚園づくりをめざします。	・学力向上、人権・同和充実、キャリア教育推進を柱に学校マニフェストを作成・公表し、児童生徒・保護者等からアンケートによる評価を行い実践した。 ・8月に中間面談、2月に期末面談を行い、取組の評価を行い、次年度の改善にいかした。	8,904 千円 8,539 千円
学力向上等推進事業 確かな学力の形成を図り、子どもたちの進路保障に努めます。学力向上に向けては、伊賀市学力向上プロジェクト委員会機能の強化、教職員研修体制の充実、教育アドバイザーの派遣を行うことで、教師の授業力や児童生徒の学習意欲の向上に努めます。また、「家庭学習・読書の手引き」を活用し、保護者と連携して、学力向上の取り組みを推進します。	・学力向上プロジェクト委員会を組織し、全国学力・学習状況調査や標準学力検査から市の学力課題、生活課題を分析し、各校での授業改善や家庭と連携した家庭学習の取組、生活習慣の改善に取り組んだ。	31,254 千円 31,512 千円
人権同和教育推進事業 部落差別をはじめ、あらゆる差別を許さず、多様性を尊重し合える実践的な児童生徒の育成に向けて、地域の実態をとらえながら、幼稚園・小中学校の系統的な学習を推進します。教職員が自らの人権意識や感性を磨く研修の機会を大切に、差別のない、人権が尊重される学校・幼稚園づくりをめざし、取組を保護者・地域住民にも発信し、啓発に努めます。	・伊賀市人権同和教育基本方針に基づき研究と実践を進めた。 ・学校人権・同和教育部会を組織し、授業交流会、部落問題を考える小(中)学生の集い、教職員研修会等、課題にそった事業を展開した。	12,054 千円 10,857 千円
キャリア教育推進事業 児童生徒が「生きる力」を身に付け、直面する様々な課題に柔軟にかつ、たくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるように、教育活動全体を通じて実施します。郷土教育を推進し、伊賀市の素晴らしさを語り、ふるさと伊賀を担うことができる力を育てます。主権者意識を養うとともに、社会の形成に参画していく意識を高めるよう、主権者教育を進めます。	・全中学校で、職場体験活動を3日間実施した。 ・キャリア教育研修会を開催し、キャリア・カウンセリングの視点から日常の体験や気づきの大切さ、「語る・語らせる・語り合わせる」ことを意識して取り組むことを確認した。	0 千円 0 千円
児童生徒支援事業 障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導や必要な支援を行います。また、「伊賀市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携していじめ問題に対応します。	・伊賀市いじめ防止基本方針を施行し、いじめの未然防止・早期解決に向け、学校・家庭・地域が連携して対応した。 ・生活学習支援員、特別教育支援員を配置し、児童生徒のニーズにあった支援を行う体制をつくった。	770,875 千円 718,810 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	市民の意見を取り入れて学校改善を行っていると感じている保護者の割合	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合
指標の説明	保護者や学校評議員や学校評価委員等の意見を取り入れて、学校改善に努めていると感じている割合(%)	全国学力・学習状況調査における「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合(%)
種別	種別	種別
増	増	増
現状値(H27)	94.7%	94.1%
目標値(H32)	94.0	84.2
95.4%	95.7%	79.2
96.8%	96.2%	94.1%
97.9%	97.4%	93.8%
100.0%	98.6%	99.8%
100%	99.8%	100.0%
80%		
60%		
40%		
20%		
0%		
H27	H28	H29
H30	H31	H32



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(89.7%)となり、H28目標値(89.0%)を0.7ポイント上回った。
 指標2は、H28年度実績値(79.0%)とH27年度実績値(79.2%)を0.2ポイント、H28目標値(81.0%)を2.0ポイント下回った。県・全国と比較すると、小学校は「ほぼ同じ」、中学校は「やや上回っている」という結果となった。今後も各校で、「学力の向上」「人権同和教育の充実」「キャリア教育の推進」を柱にマニフェストを作成し、最終的に自分の進路を切り開いていく力、他者と支え合いながら社会を創っていく力を身につけることができる取組を組織的、継続的に小中学校が連携して展開する必要がある。
 まちづくりアンケートの結果、市民満足度が19.4%、重要度が15.0%であった。「重要度が高く、満足度が低い」となったことから、今後も一層学校での取組を保護者や地域の方に発信していく必要がある。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
地域とともに学校マニフェスト推進事業(学校経営品質向上事業) ・経済的・家庭的状況が厳しい児童生徒に対する支援の必要性が高まっている。	・各校区で学校支援地域本部を立ち上げ、各校の課題解決を地域とともに取り組む。	15,637 千円	→
学力向上等推進事業 ・平成28年度の全国学力・学習状況調査では、全国平均より小学校は「ほぼ同じ」、中学校は「やや下回る」結果である。	・調査結果を分析した授業力の向上、安心して学べる環境づくり、小中学校の連携、保護者・地域との連携に組織的に取り組む。	26,099 千円	→
人権同和教育推進事業 ・他者を傷つける発言が多く報告されている。	・児童生徒の現状、学校の取組を保護者・地域に伝え、差別解消の取組を連携して進める。	11,247 千円	→
キャリア教育推進事業 ・全体計画、指導計画の見直し、職場体験の見直しを行う。	・小中学校の連携を明確にする。 ・キャリアカウンセリングの視点を明確にする。 ・小学校は中学校と連携することで、必要な職場体験のみ実施する。	0 千円	→
児童生徒支援事業 ・生徒指導上の課題に対する未然防止・早期解決にあたる。 ・支援を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、児童生徒のニーズにあった支援が十分にできない状況がある。	・関係機関等と連携し、学校がチームとして課題にあたる。 ・「個別の支援計画」「個別の指導計画」を立て、一人一人に応じた支援を行う。	739,315 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

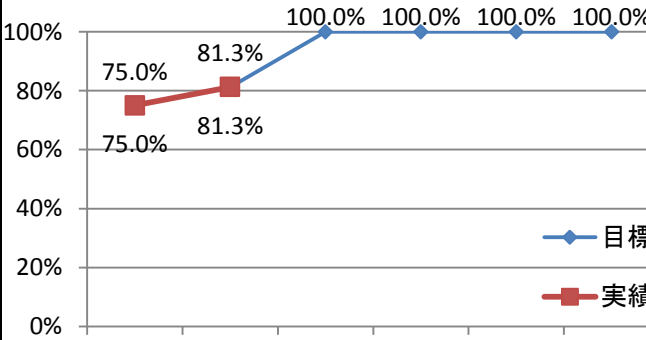
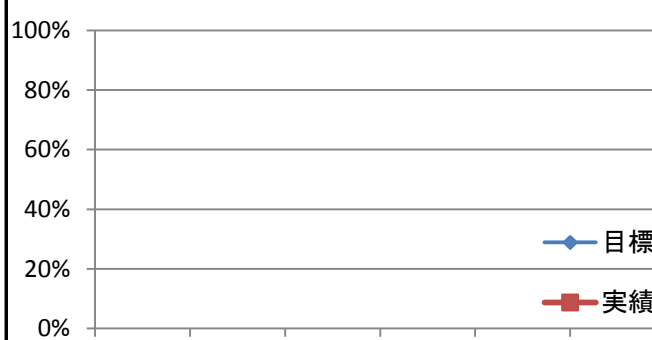
教育委員会

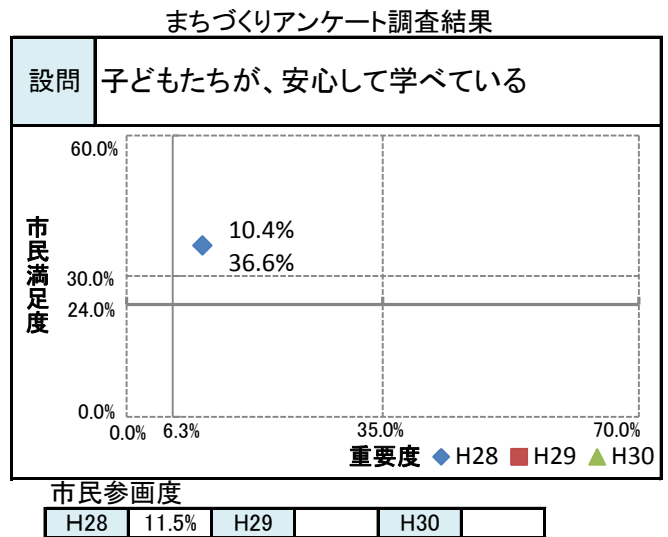
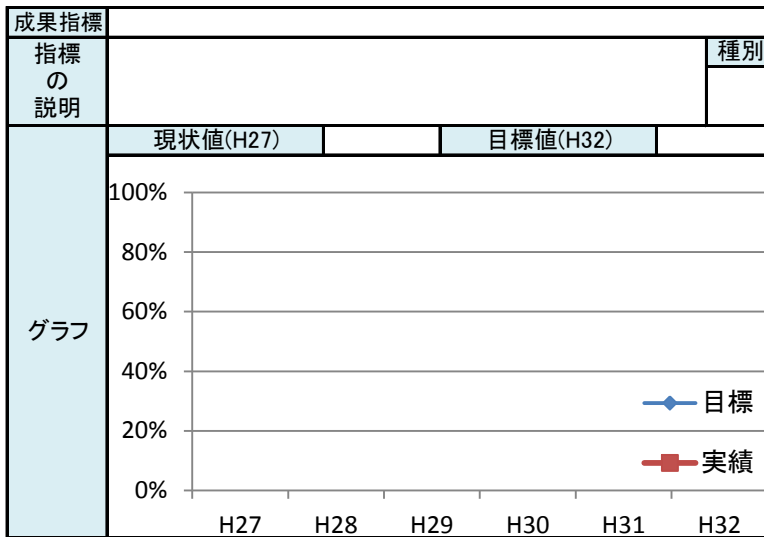
- ・一人ひとりが自分らしく生きられるよう明るく快適な教育環境づくりを進めます。
- ・児童生徒が安全・安心で充実した施設設備の小中学校で学べるまちづくりを進めます。
- ・小中学校の児童生徒に安全・安心な学校給食を提供し、充実した子育てができるまちづくりを進めます。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
校区再編事業 小学校については、上野北部地区、上野南部地区、阿山地区の統合を進めるとともに、中学校についても統合に向けた検討を進めます。	(上野北部地区)長田小学校と新居小学校を統合し、新新居小学校を建設するため、仮設校舎を建設しました。 (上野南部地区、阿山地区)地域、学校、保護者と統合の是非について意見集約を始めました。	0 千円
		0 千円
学校施設整備事業 児童生徒の生活環境を改善するため、小学校の普通教室に空調設備を設置し、小中学校のトイレの洋式化を進めます。	・府中・中瀬小学校の空調設置工事を実施しました。 ・新居小、緑ヶ丘中、青山中の様式便器を増やしました。	370,308 千円
		317,651 千円
給食センター運営管理・建設事業 小学校給食の基本方針に基づき新給食センターの建設を民間資本の活用を前提に進めます。自校からセンターに切り替える学校の受入口の改修を進めます。校区再編による仮設校舎の時期に対応した給食センターの運営管理を行います。	・PFI導入可能性調査を実施しました。 ・伊賀市小学校給食センター建設基本計画を策定しました。 ・小学校給食センター整備運営事業アドバイザー業務を委託し建設に向け準備をしました。	300,410 千円
		214,372 千円
通学対策事業 学校統合など過去のしがらみにとらわれず地域の実情に応じた通学のあり方を再検討し、安全・安心とあわせて公共交通手段の利用など効率的なスクールバスの運営管理を行います。	通学のあり方市内検討委員会を開催し、通学の現状把握を行いました。	293,865 千円
		186,427 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】 増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	空調設備の整備率							
指標 の 説明	小中学校の普通教室に空調設備が整備されている学校の割合（％）			種別				種別
				増				
グラフ	現状値(H27)	75.0	目標値(H32)	100.0	現状値(H27)		目標値(H32)	
								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(81.25%)とH27現状値(75.0%)から6.25ポイント増となり、H28目標値(%)をポイント上回った。その要因は府中小・中瀬小の普通教室への空調整備工事を実施したため。残る三校については29年度実施予定である。
------------------------------------	---

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
校区再編事業 伊賀市校区再編計画により進めてきた小中学校の統廃合について、未実施である校区の再編検討並びに実施校の整備を行います。	・(上野北部地区)新居小学校北校舎の解体工事を実施し、新校舎棟建設に向け準備を行います。 (阿山地区)玉滝小学校の阿山小学校への統合について、地域・学校・保護者と協議を進めます。 (上野南部地区)依那古、神戸小学校の統合について、地域・学校・保護者と協議を進めます。	0千円	→
学校施設整備事業 ・児童生徒の学習、生活の場である学校施設は、老朽化が進行し、維持管理上の懸案事項も多く抱えています。また、時代の変化に伴う課題として、トイレ便器の洋式化、温暖化現象による平均気温の上昇に伴う教室環境の改善が必要です。	・計画的に施設整備を進めていきます。 柘植・西柘植・壬生野小学校の空調設置工事を実施します。これにより、平成32年度から統廃合する長田小学校を除く全小中学校の普通教室への空調整備は終了します。緑ヶ丘中学校のトイレの様式化を進めます。	122,305千円	→
給食センター運営管理・建設事業 ・伊賀市小学校給食センター建設基本計画に基づき、給食センターをPFI事業で整備し、平成31年度完成を目指します。 ・大山田給食センターの改修	・小学校給食センター建設基本計画に基づき、平成31年度完成に向け、業者選定を行います。 ・大山田給食センターでの新居小学校給食受入れに対応するために必要な施設設備改修工事並びに給食用備品購入を行い、安全・安心な給食の提供に努めます。	254,594千円	→
通学対策事業 学校統合や合併前の制度をそのまま運用しており、個人負担の有無、対象児童・生徒も、各学校で異なっていることから、学校間、地域間の不公平感があります。また、校区再編により、スクールバス運行路線が多く、財政負担も大きくなっています。	・地域、学校、保護者の意見を聞きながら、全市を対象とした公平で統一的な制度とするため、引き続き通学のあり方庁内検討委員会を開催します。また財政負担軽減のため、スクールバス、行政バス、乗り合いバスの相互利用に向けた検討を進めます。	246,700千円	→
廃校施設活用・処分 校区再編の進展により多くの廃校施設を抱えています。 学校施設は、他の公共施設と比較すると、敷地や建物の面積規模が大きく、地域住民による活用意向のない廃校施設は、市民の貴重な財産として、長期にわたる全面的な活用が必要です。	新たに「廃校施設活用の今後の進め方の方針」(H27年度には都市計画法上の課題により、暫定的な方針を定めている。)を策定し、個々の施設別に市事業による活用に加え、公共的・公益的な団体による事業や民間事業による活用も視野に、部局横断的に市有財産の「有効活用」、「総量縮減」に取り組めます。	0千円	新規

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

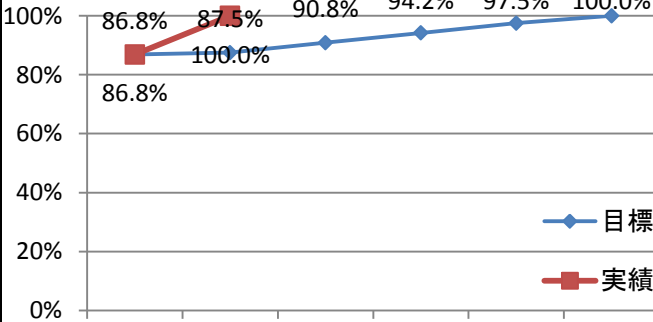
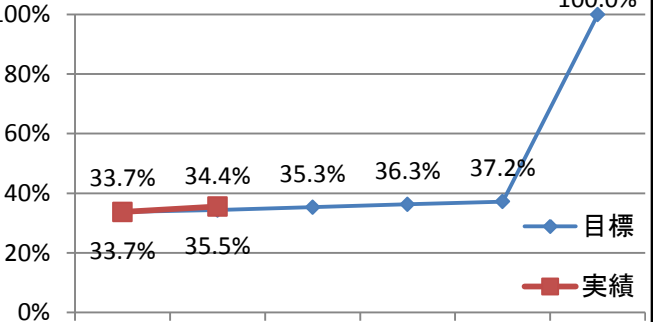
- ・生涯学習センターや公民館等で学習したことを、自主的なサークル活動につなげるとともに、各地区公民館や分館のある地域では、活発にサークル活動が継続して行われることで、毎年文化祭等日頃のサークル活動の成果を披露する場を設けます。
- ・学校や他の団体と連携した図書館利用のイベントなどを企画することにより、知り学ぶ図書館というイメージに加え、調べ・紹介・発信できる新しい図書館文化の構築を図りつつ、図書館利用層の拡大に努めます。
- ・ボランティアグループ等の協力を得て、保育所(園)や学校等での読み聞かせの実施や読書に親しむ環境づくりを行うとともに、学校図書館との連携に努めます。

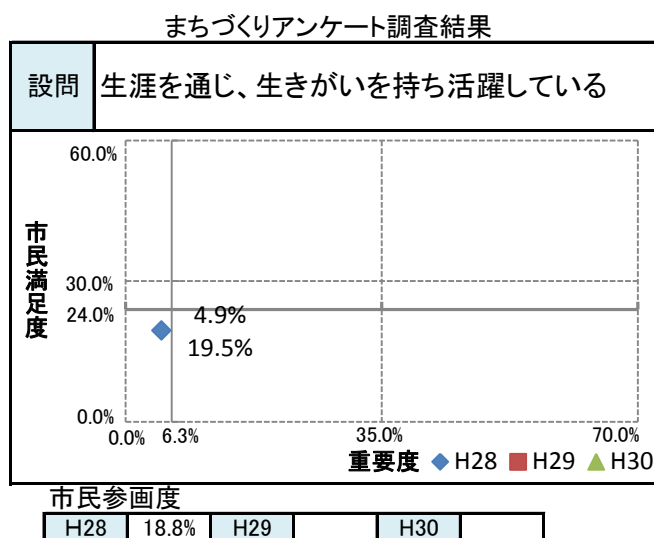
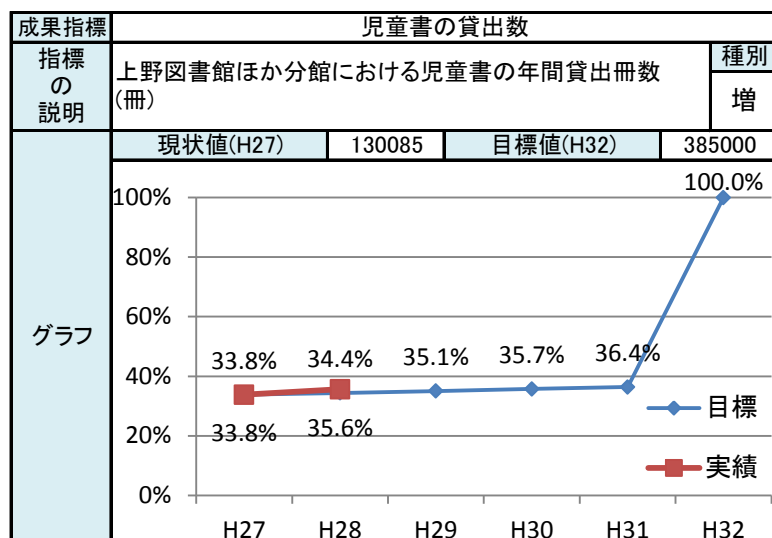
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
生涯学習推進事業 若者の社会参画として成人式の運営、中間層世代の参画を促すための初めての講師サポート事業、まちづくりにおける人材育成を目的とした生涯学習大学の開催など市民の学習意欲・社会参画に応じた学習・参画の機会を提供します。また、まちの活性化につなげるため、産学官の連携を推進し、多様な学習機会の提供に努めます。	初めての講師サポート事業の開催や人材育成を目的にさまざまな大学の講座を開催することで生涯学習の機会を提供した。	7,329 千円
		7,447 千円
図書館活動推進事業 図書館の役割や重要性について市民の理解が深まるよう、図書館を利用したイベントなどを企画し、市民のニーズを的確に把握しながら、新しい図書館の整備・充実に向けた市民意識の向上を図り、その実現をめざします。	開館時間を2時間延長してAM9～PM7に改め、利便を向上させました。ナイトライブラリーを開催したほか、図書館ツアー、自然教室、講演会や館内でのクラシックBGMの実施等新しい図書館利用を提供しました。	84,801 千円
		86,299 千円
子ども読書活動推進事業 家庭や図書館、学校等のそれぞれが連携し合うことで、子どもが自ら進んで読書に親しめる環境を整えます。また、市内で活動する読み聞かせボランティアグループの育成や支援にさらに取り組みます。	第二次伊賀市子ども読書活動推進計画に基づき、年度ごとに目標を設定し取り組むことで、子どもの読書活動を推進することができた。	157 千円
		156 千円
公民館活動事業 公民館活動のあり方(中央館・地区館・分館)を見直し、市内全域での時代に即した施設運営を進め、市民ニーズに合わせた学習機会や発表の場を提供するとともに、地域で活躍する人材を育成するなど事業推進を行うことにより地域教育力の高揚を図ります。	公民館職員を対象に地域リーダー育成のための研修会を開催した。	34,959 千円
		33,693 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	生涯学習施設の利用者数				図書の貸出者数			
指標 の 説明	生涯学習施設の年間利用者数（人）			種別	上野図書館ほか分館の年間図書貸出利用者数（人）			種別
				増				増
グラフ	現状値(H27)	104212	目標値(H32)	120000	現状値(H27)	88252	目標値(H32)	262000
								
	86.8% 87.5% 90.8% 94.2% 97.5% 100.0%				33.7% 34.4% 35.3% 36.3% 37.2% 100.0%			



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(124,421人)とH27現状値(104,212人)から20,209ポイント増となり、H28目標値(105,000人)を19,421ポイント上回った。その要因は、教室・講座数を拡大して、市民ニーズにあった講座を開催した。

指標2は、H28年度実績値(93,016人)とH27現状値(88,252人)から4,764ポイント増となり、H28目標値(90,000人)を3,016ポイント上回った。主な要因は、開館時間を2時間延長したためである。

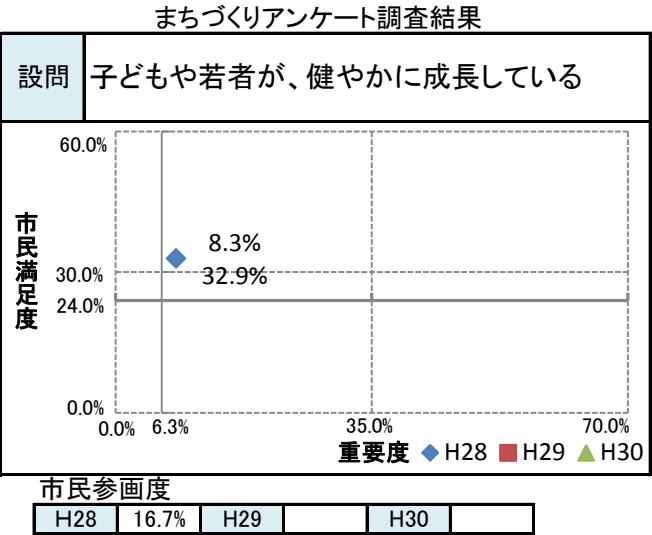
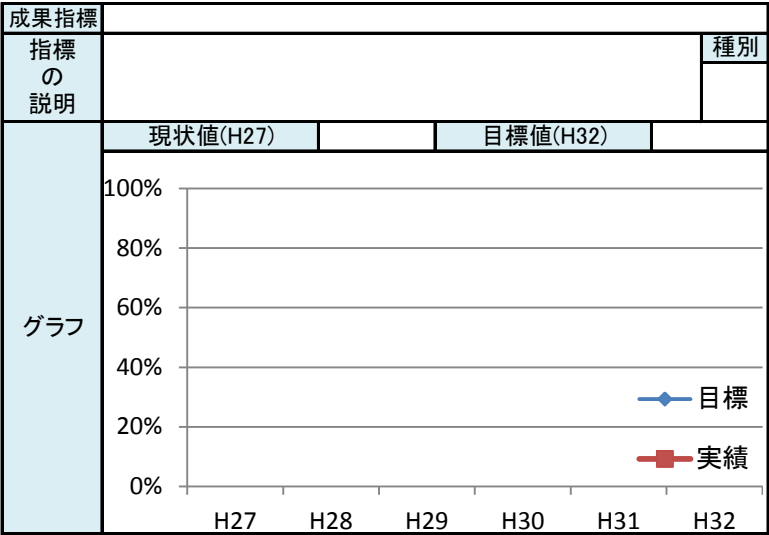
指標3は、H28年度実績値(137,078冊)とH27現状値(130,085冊)から6,993ポイント増となり、H28目標値(132,500冊)を4,578ポイント上回った。その要因は、読み聞かせやイベント回数を開催したことによる。

市民満足度を高めるため、市民ニーズに応える新しい講座の開催に努め、図書館についてはイベントの開催による利用促進や居場所となる利用しやすい図書館づくりの工夫などを行うこととします。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
生涯学習推進事業 若者や中間層にある世代に配慮した活動環境が必要である。	引き続き市民ニーズにあったテーマを設定し、初めての講師サポート事業、キャリア教育・郷土教育・カジダン養成など生涯学習活動の推進を図る。	8,864 千円	→
図書館活動推進事業 図書館の利用者は、市民の約1割程度であるため、これまで図書館を利用したことのない市民が、図書館を利用する取り組みが必要である。	ホームページや広報による図書館活動の情報を発信することで、市民の利用を促進する。 伊賀市の賑わい創出事業における複合施設機能として、新図書館計画を推進する。	83,441 千円	→
子ども読書活動推進事業 読み聞かせやお話会などの取り組みを進めていますが、年齢が進むにつれて、読書時間、読書量が減少している。	家庭、図書館(図書室)、学校等が連携することで、本に親しむ環境を整え、子どもが自ら進んで読書に親しむよう取り組みを図っていく。	0 千円	→
公民館活動事業 地区公民館、分館も含めて公民館事業(活動)のあり方を検討する必要がある。	分館の廃止に向けた取り組みを進めるとともに、分館のない地域も含め市全体で生涯学習を推進していくために、「地域における学びのワークショップ」を開催する。	29,611 千円	→



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(6,214人)とH27現状値(7,000人)から786ポイント減となり、H28目標値(7,100人)を886ポイント下回った。その要因は、子どもの休日の過ごし方(塾など)や子どもの数の減少が影響している。
------------------------------------	--

課題と今年度の取組み案【ACTION】 新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
青少年健全育成事業 青少年健全育成に積極的な団体(組織)に対して支援していく方策の構築を行ったが、事業の継続に不安がある。	青少年健全育成団体においては、すべての団体が自主運営できる体制づくりの指導を強化していく。	7,956 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】

人権生活環境部

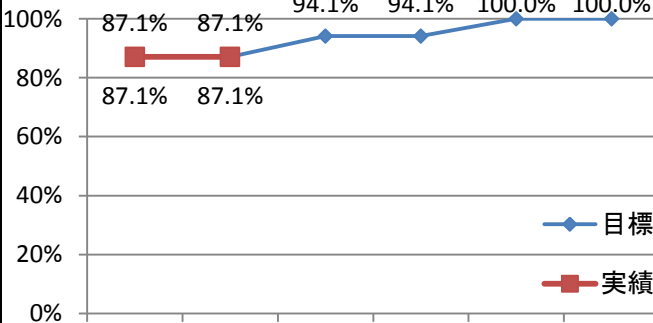
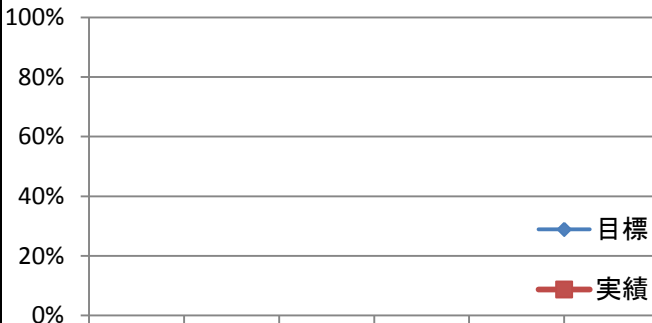
・外国人住民が多いことは本市の特性の一つであり、外国人が住みやすいまちは、日本人にとっても住みやすいまちであることを情報発信し、魅力ある多文化共生社会をめざします。

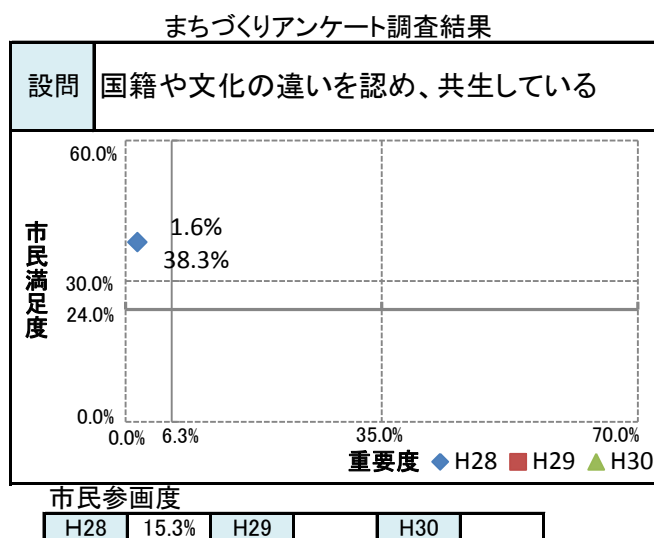
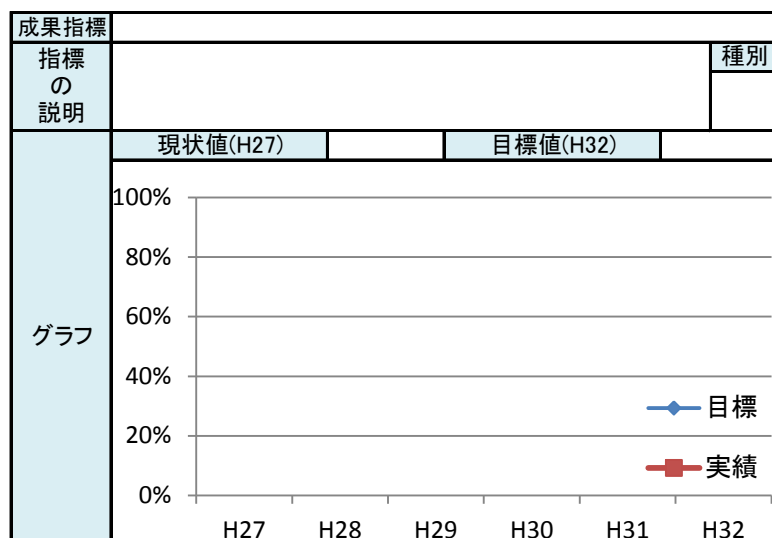
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
多文化交流の促進 伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	・多文化共生サポーター講座を開催し、参加者26人のうち12がサポーターとして登録された。 ・国際交流協会、NPOと協力し、国際交流フェスタや多文化理解講座を開催した。	15,600 千円
		14,660 千円
外国人住民支援の充実 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかわる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	・生活オリエンテーションや多言語相談により在住外国人の生活支援を行った。 ・8月8日に多文化共生センターを開設し、多文化、生活、イベント情報を多言語で提供した。	7,660 千円
		6,293 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	外国人住民が住んでよかったと感じる割合											
指標 の 説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合（％）			種別				種別				
				増								
グラフ	現状値(H27)	74.0	目標値(H32)	85.0	現状値(H27)		目標値(H32)					
												
	100% 87.1% 87.1% 94.1% 94.1% 100.0% 100.0% 80% 60% 40% 20% 目標 0% 実績				100% 80% 60% 40% 目標 20% 0% 実績							
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31	H32



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(74.0%)とH27現状値(74.0%)から増減がなかった。生活オリエンテーションや多言語相談による在住外国人の生活支援を充実していくことが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
多文化交流の促進 ・多文化共生嘱託員が市役所内の業務(通訳・翻訳)に多くの時間を必要とするため、多文化共生業務に時間を取れない状況にある。	・市内連絡会議において「やさしい日本語」による対応や、翻訳の外注などの協力を求め、本来の業務が遂行できる体制を整える。 ・多文化共生嘱託員の能力を活かした、ニーズに合った多文化共生・国際交流事業を行っていく。	15,003 千円	→
外国人住民支援の充実 ・多文化共生センターの機能を充実するためには、場所が手狭である。 ・多文化共生センターを活用した事業を行っていくうえで、ボランティア育成が必要である。	・新庁舎移転に伴う公共施設配置の見直しにおいて、新たな設置先を検討する。 ・多文化共生センターを市民に周知し、協力者を増やしていく。	2,858 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

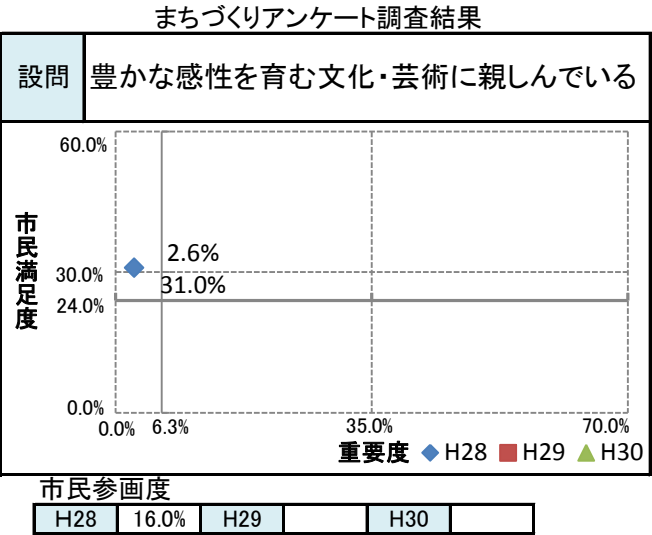
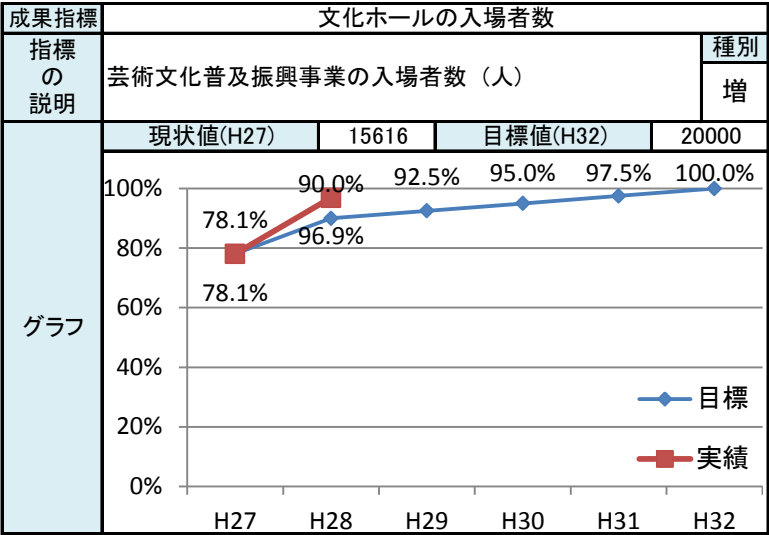
・松尾芭蕉や横光利一、樋口大祐、元永定正など偉大な文化人、芸術家を生み出した本市を誇り、若い世代へも裾野を広げ感性豊かな人づくり・地域づくりへの一役を担います。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
文化・芸術振興事業 だれもが気軽に文化芸術を楽しめるよう、機会の充実、市民美術展覧会や市民文化祭の運営を行い、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化芸術活動の担い手の育成を進めます。	・市展については、28年度は（公財）伊賀市文化都市協会と共催とし民間の経験、ノウハウを活用し市民の文化芸術意識の向上を図った。 ・市民文化祭については文化祭実行委員会に委託し地域文化の振興、お互いの文化意識の向上を図った。	21,063 千円
		23,498 千円
文化施設維持管理事業 文化芸術活動の拠点となる文化会館などの施設の適切な管理運営を行い、活動内容の向上や施設環境の維持向上に努めます。	・ホール4施設は（公財）伊賀市文化都市協会を指定管理者とし適正な施設の運営・管理を行った。28年度は文化会館開館25周年であり記念事業を開催し文化芸術の振興を図った。 ・各ホールとも老朽化が進み修繕が多発しているため優先順位を付け修繕を行なった。	196,109 千円
		195,861 千円
芭蕉翁顕彰事業 芭蕉翁の顕彰と、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究・継承・啓発を行うとともに、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。芭蕉翁の生誕地として、市民に親しまれ、まちづくりにつながる事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備・充実を進めます。	・第70回芭蕉祭を開催し芭蕉翁の顕彰及び俳句啓発を行った。俳句のユネスコ登録を目指し俳句関連団体等と発起人会を開催し、推進協議会を設立するための準備会を設置した。 ・芭蕉翁記念館では企画展3回と特別展1回を開催し年間12,053人の入館者があった。	121,730 千円
		110,339 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】 増＝単年度の目標（増加を目指す） 減＝単年度の目標（減少を目指す） 累＝累積値の目標

成果指標	市民美術展覧会の出品者数、鑑賞者数				芭蕉祭献詠俳句等応募数																																												
指標 の 説明	一般応募者数と鑑賞に訪れた人数の合計（人）			種別 増	芭蕉祭献詠俳句等応募数（俳句、連句、絵手紙、ポスター原画）（件）			種別 増																																									
グラフ	現状値(H27)	2988	目標値(H32)	3000	現状値(H27)	39291	目標値(H32)	40000																																									
	<table><caption>市民美術展覧会 実績値と目標値の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (%)</th><th>目標値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>99.6%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H28</td><td>63.8%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H29</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H30</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H31</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H27	99.6%	100.0%	H28	63.8%	100.0%	H29	100.0%	100.0%	H30	100.0%	100.0%	H31	100.0%	100.0%	H32	100.0%	100.0%	<table><caption>芭蕉祭献詠俳句等 実績値と目標値の推移</caption><thead><tr><th>年度</th><th>実績値 (%)</th><th>目標値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>98.2%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H28</td><td>96.4%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H29</td><td>99.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H30</td><td>99.3%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H31</td><td>99.5%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	実績値 (%)	目標値 (%)	H27	98.2%	100.0%	H28	96.4%	100.0%	H29	99.0%	100.0%	H30	99.3%	100.0%	H31	99.5%	100.0%	H32	100.0%
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																															
H27	99.6%	100.0%																																															
H28	63.8%	100.0%																																															
H29	100.0%	100.0%																																															
H30	100.0%	100.0%																																															
H31	100.0%	100.0%																																															
H32	100.0%	100.0%																																															
年度	実績値 (%)	目標値 (%)																																															
H27	98.2%	100.0%																																															
H28	96.4%	100.0%																																															
H29	99.0%	100.0%																																															
H30	99.3%	100.0%																																															
H31	99.5%	100.0%																																															
H32	100.0%	100.0%																																															



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(1,915人)とH27現状値(2,988人)から1,073ポイント減となり、H28目標値(3,000人)を1,085ポイント下回った。その要因は開催期間が上野天神祭りの期間での開催としているため祭りの日が雨のため午後から中止になり人出が減少したことが影響した。祭りに影響されない運営方法と文化芸術に関心を持つ市民をどう増やすかが課題である。

指標2は、H28年度実績値(38,571件)とH27現状値(39,291件)から720ポイント減となり、H28目標値(39,500件)を929ポイント下回った。その要因は児童・生徒の部以外の部門では増加しているが児童・生徒の部での応募数が減少していることによる。特に中学校、高等学校の応募数の減少が顕著であるため学校への啓発活動が課題である。

指標3は、H28年度実績値(19,379人)とH27現状値(15,616人)から3,763ポイント増となり、H28目標値(人)を1379ポイント上回った。その要因は25周年記念事業として実施したNHKのど自慢、BS日本の歌など市民だけでなく市外の方も来たいと思う事業など自主事業が充実していたと考える。設備等が老朽化により修繕が必要であり優先順位をつけ整備を行なう必要がある。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
文化・芸術振興事業 ・市民美術展覧会については上野天神祭りの人出、天候に左右されていることから、運営方法、開催時期等の見直しを行なったが、若者の出品ができるの出品について29年度は変更後初めての開催となることから出品者、鑑賞者への変更周知の徹底を行なう必要がある。	・市民美術展覧会について、平成28年度中により展示等より効果的な市展とするため、開催時期、開催場所について検討を行い、変更する方向で協議が整った。については変更について早期に周知を行う。また、担い手の裾野を広げる必要があるため伊賀管内の高校等への案内周知の強化に努める。	27,733 千円	→
文化施設維持管理事業 ・各施設とも老朽化が進み大規模な修繕が必要となっている。	・公共施設最適化計画で複合化としたふるさと会館いが、一部縮小としたあやま文化センターについて計画的に進めることで生み出される財源により維持するとした施設の大規模改修を行なうことが可能となるため、施設の利用特性や施設機能、経済性等を考慮し適切な運営方法を関係部署と協議しながら進める。	199,720 千円	→
芭蕉翁顕彰事業 ・新芭蕉翁記念館の整備について、関連する施設整備との整合を図り早急な取組みが必要である。	・施設整備の方向性を早急に決定し、予算措置を行い、事業計画の見直し、展示計画の策定を始め整備を進める。	40,745 千円	↑

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

教育委員会

・伊賀は、古くは都に接し畿内と東国を結ぶ東西文化の接点となった地域であり、特色ある歴史と豊かな文化を形成し、県内有数の文化財件数を誇ることから、これらの文化遺産を活用した魅力あるまちづくりをめざします。

・城下町や宿場町では、伝統的な建物が減少して空洞化が目立ち、歴史的景観が失われつつあります。市民にとって制約の多い多少不便な場所であっても、歴史が息づくまちとして愛着を持ち、かつての賑わいを取り戻すことをめざします。

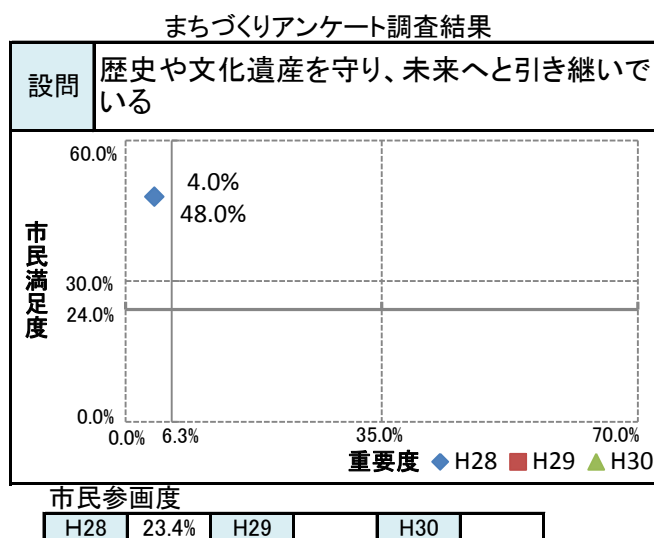
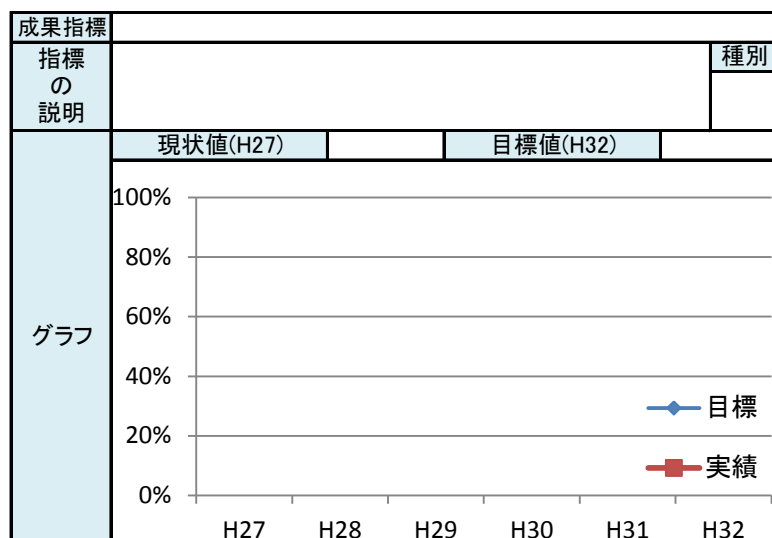
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
文化財保護事業 開発にかかわる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。一般文化財は、調査により記録化を図り、保存すべきものを指定・登録します。史跡は文化財の価値をより高めるために、環境整備や史跡整備、修理を行います。無形(民俗)文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。有形文化財は、管理者と協議のもと防犯・防災を推進していきます。	・2件の文化財を新規市指定し、1件の市指定が県指定に昇格しました。 ・伊賀国分寺・御墓山古墳・伊賀国庁跡の草刈り等を延べ174,244㎡実施しました。 ・上野天神祭のダンジリ行事では、西町楼車の雪洞と徳居町太鼓台を復元・修理しました。	71,333 千円 67,287 千円
歴史まちづくり事業 上野城下町、観音寺と大和街道島ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物を指定し修景助成や、ポケットパーク、まち巡り拠点、古民家再生、道路美装化による歩行者空間の整備など、周辺の歴史的な風致の維持向上に努めます。	・上野城下町にある歴史的風致形成建造物指定候補21件を指定にしました。また、3件を新たに指定候補に追加しました。 ・計画にある上野城跡・旧崇広堂の保存整備事業、俳聖殿防災設備事業を終了しました。	0 千円 0 千円
市史編さん事業 『伊賀市史』全7巻のうち、未刊行の1冊を発刊し、全7巻を刊行します。	・『伊賀市史』刊行計画の第6冊目となる第2巻通史編近世を発刊しました。 ・『伊賀市史』刊行計画の第7冊目となる第7巻年表・索引の原稿を作成し、原稿の入稿を開始しました。	23,916 千円 19,063 千円
歴史資料の整理・保存・管理事業 編さんの過程で収集した歴史資料及び市内各施設に残る合併前の公文書等を整理し、将来にわたって活用できるようにするため、公文書館等を設置するなど、保存・管理体制の整備に取り組みます。	・市内で所蔵する個人等の所蔵文書13件の目録を作成しました ・各支所保管の公文書の管理状況について調査を実施するとともに、全国の市区町村立の公文書館等26施設にアンケートを行い、保存・管理体制の整備に向けての資料を収集しました。	0 千円 0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	文化財施設への入館者数				『伊賀市史』有償頒布数																																													
指標 の 説明	市内の主な文化財施設への1日当たりの平均入館者数（人／日）			種別 増	『伊賀市史』の販売冊数（冊）			種別 増																																										
	現状値(H27)	12.36	目標値(H32)	13.93	現状値(H27)	2165	目標値(H32)	2870																																										
グラフ	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>88.7%</td><td>88.7%</td></tr><tr><td>H28</td><td>91.9%</td><td>92.0%</td></tr><tr><td>H29</td><td>84.2%</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td></td><td>95.4%</td></tr><tr><td>H31</td><td></td><td>96.6%</td></tr><tr><td>H32</td><td></td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	実績	目標	H27	88.7%	88.7%	H28	91.9%	92.0%	H29	84.2%		H30		95.4%	H31		96.6%	H32		100.0%	<table><thead><tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>75.4%</td><td>75.4%</td></tr><tr><td>H28</td><td>87.6%</td><td>90.1%</td></tr><tr><td>H29</td><td></td><td>93.6%</td></tr><tr><td>H30</td><td></td><td>96.9%</td></tr><tr><td>H31</td><td></td><td>98.4%</td></tr><tr><td>H32</td><td></td><td>100.0%</td></tr></tbody></table>				年度	実績	目標	H27	75.4%	75.4%	H28	87.6%	90.1%	H29		93.6%	H30		96.9%	H31		98.4%	H32		100.0%
	年度	実績	目標																																															
H27	88.7%	88.7%																																																
H28	91.9%	92.0%																																																
H29	84.2%																																																	
H30		95.4%																																																
H31		96.6%																																																
H32		100.0%																																																
年度	実績	目標																																																
H27	75.4%	75.4%																																																
H28	87.6%	90.1%																																																
H29		93.6%																																																
H30		96.9%																																																
H31		98.4%																																																
H32		100.0%																																																



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(12.82人／日)とH27現状値(12.36人／日)から0.46ポイント増となり、H28目標値(12.80人／日)を0.2ポイント上回った。その要因は、上野歴史民俗資料館が29年2月末で閉館したが、年間入場者数について、旧崇広堂が前年比1241人増加したことである。29年度は同じく上野歴史民俗資料館の5000人が減少することが課題である。 指標2は、H28年度実績値(2,586冊)とH27現状値(2,165冊)から421ポイント増となり、H28目標値(2,515冊)を71ポイント上回った。その要因は編さん事業及び編さん事業の成果が広く認知されてきたためと思われる。
------------------------------------	---

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
文化財保護事業 ・上野城跡と旧崇広堂の史跡保存整備事業を一旦終了したが、上野城跡整備は完了したのではなく多くの課題が残されている。 ・予算確保が厳しいことから、史跡の伊賀国分寺・御墓山古墳・伊賀国庁跡の草刈りやくれ返しが十分できない状況である。	・上野城跡は、今後、保存整備中期実施計画を策定し、筒井本丸跡の顕在化、上水道配水池と管理道路の撤去、空堀の整備・顕在化、不要な建造物の撤去、樹林の伐採・剪定を進めなければならない。特に、樹木伐採・剪定により、石垣が望める市のシンボルとしていく。 ・職員による草刈り作業や、必要最低限の草刈り等により、維持管理コストの縮小に努めていく。	40,530 千円	→
歴史まちづくり事業 ・既存の計画の進捗管理と風致形成建造物の指定しかなかったので、財源を確保してこの計画による新規事業に取り組む必要がある。 ・重点区域に入って、具体的にどこをいつまでにどのようにまちづくりを進めるのかを協議する必要がある。	・庁内横断的な組織を構築するなどして、文化財部門とまちづくり部門が協調して計画を進めていく。 ・具体的な計画を策定することにより、重点区域の住民による地元への愛着意識を高め、まちづくりに関心を持つ市民を増やしていく。	0 千円	↑
市史編さん事業 ・『伊賀市史』第7巻年表・索引の編集・校正を正確かつ速やかに行う必要があります。	・編集委員等との連絡・調整を緊密に行い、適切に編集・校正作業を行います。	17,770 千円	→
歴史資料の整理・保存・管理事業 ・市域の歴史資料及び合併前の公文書等の目録作成を行うとともに、保存・管理体制の整備に取り組めます。	・各種資料等の目録作成を努めるとともに、保存・管理体制の整備に向けて本格的に取り組むため、先進地視察を行います。	0 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】

企画振興部

- ・地元サッカー伊賀FCくノーや全国高校駅伝常連校の伊賀白鳳高校の技能や知名度を活かすまちづくりを進めます。
- ・市民が主体となった総合型地域スポーツクラブや、スポーツ団体が持つ専門性をスポーツ施設の管理運営に活かすまちづくりを進めます。
- ・伊賀市公共最適化計画により、持続可能なスポーツ施設を活かしたまちづくりを進めます。
- ・地域やスポーツ団体等が主体的に開催するスポーツイベントを通して地域の魅力や特性を広く情報発信(アピール)するまちづくりを進めます。

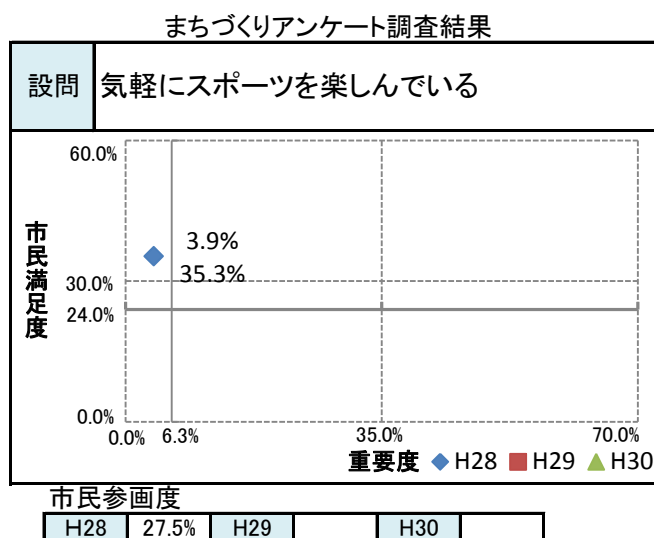
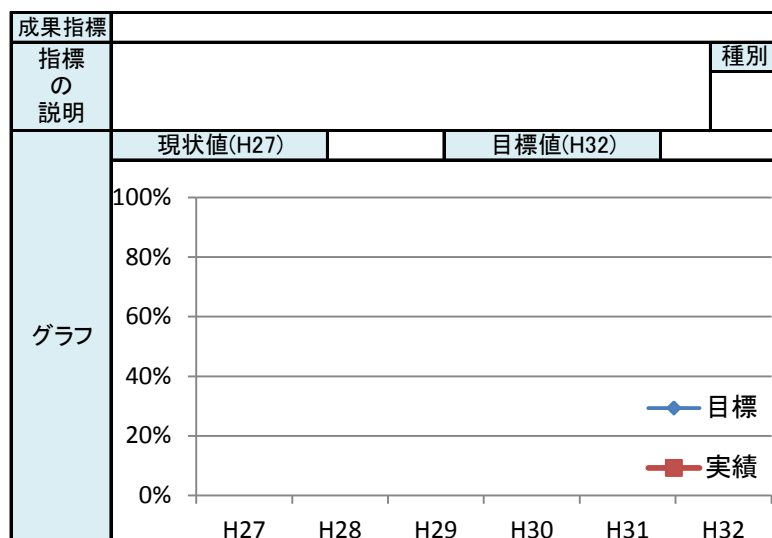
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
スポーツ振興事業 地域が主体となった気軽に楽しむスポーツを推進するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体活動の支援を行い、生涯を通じて健康な心と体を育みます。種目別の競技スポーツ活動を奨励するとともに、市民参加型スポーツイベントの開催や魅せるスポーツ活動への支援を行います。	・一人でも多くの市民にスポーツに親しんでいただくため、スポーツ推進委員などを対象に、ニュースポーツなどの研修を実施した。 ・スポーツ団体やスポーツ推進委員、地域住民の協力のもと、伊賀上野シティマラソン、市民スポーツフェスティバルを開催した。	31,963 千円 31,775 千円
スポーツ施設整備・維持管理事業 伊賀市公共施設最適化計画に基づき、持続可能なスポーツ施設整備を計画的に行います。スポーツ施設を安全かつ快適に利用できるよう維持管理の充実に努めるとともに、必要な修繕・改修を計画的に行います。	・老朽化した上野運動公園体育館を体育施設条例から削除し、機能を旧商業高校体育館へ移転した。 ・体育施設を指定管理者制度により民間のノウハウを活用し、サービス向上、施設の有効活用及び管理経費の削減を図った。	325,898 千円 307,865 千円
三重とこわか国体推進事業 三重とこわか国体(第76回国民体育大会)の開催に向けた準備を進めます。	・国体推進係(正規職員2名)を設置した。 ・第76回国民体育大会伊賀市準備委員会設立発起人会を開催した。 ・市で開催する5競技について、平成28年度に開催した岩手国体へ本大会並びに大会開催後の事業説明会を視察した。	744 千円 666 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	スポーツイベントへの参加者数							
指標の説明	市主催のスポーツイベント(教室含む)への市民の参加者数(人)		種別	増			種別	
	現状値(H27)	4132	目標値(H32)	5000	現状値(H27)		目標値(H32)	
グラフ								



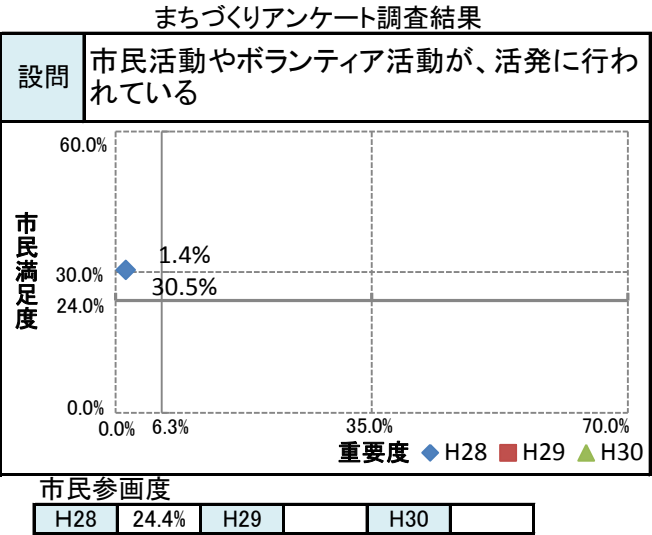
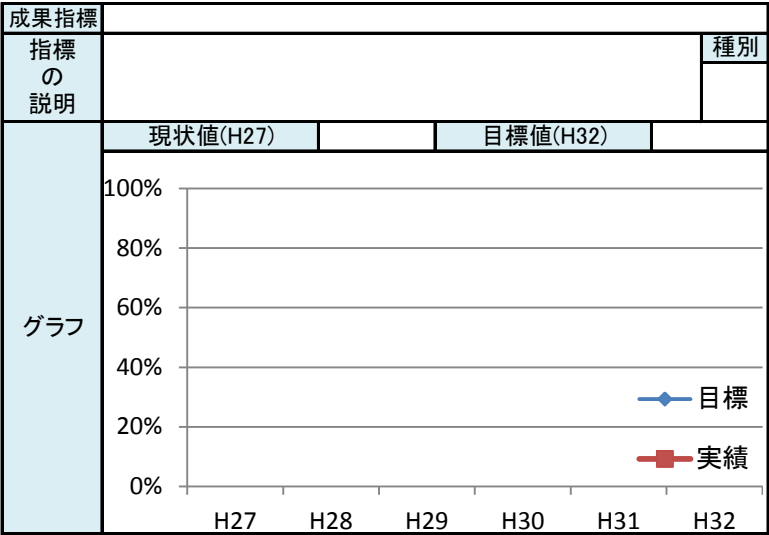
「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(3,870人)とH27現状値(4,132人)から262ポイント減となり、H28目標値(4,300人)を430ポイント下回った。その要因は、市が主催するスポーツ教室の開催をスポーツ団体に委託したことにより幅広い年齢や種目また多くの地域で開催できたが、開催情報の周知が全市的ではなかったため参加者数が減少した。教室参加募集の周知方法が課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
スポーツ振興事業 ・一人1スポーツの実現に向け、市民が主体的に気軽にスポーツ活動に参加、参画できるしくみをつくる必要がある。	・スポーツ推進委員による市民へのスポーツ活動を推進するため、だれでもができるニュースポーツの研修を実施する。 ・ひとりでも多くの市民にスポーツに親しんでいただくため、総合型地域スポーツクラブなどへスポーツ教室の開催を委託する。	25,714 千円	→
スポーツ施設整備・維持管理事業 ・老朽化している施設を計画的に改修整備していくため、伊賀市に見合った体育施設の最適化を着実に進める必要がある。 ・施設の維持管理について、民間事業者だけでなく、体育協会などの各種団体のノウハウも活用して実施できないか検討する必要がある。	・各施設ごとの利用状況などを調査し、また利用者やスポーツ団体などの意見を踏まえ施設の再配置計画策定に向けて取り組みを始める。	136,593 千円	→
三重とこわか国体推進事業 ・国体準備を本格化するため伊賀市準備委員会の設立が必要である。 ・三重県準備委員会や競技開催市町との連絡調整、情報共有、情報収集が必要である。 ・各競技開催に向けて会場設営や選手輸送、警備など計画を作成する必要がある。	・伊賀市準備委員会を早期に設立し、国体準備の本格化に向けて体制を整える。 ・各種会議や本年度愛媛県で開催される大会の視察を実施し、伊賀市での開催に必要な事項について検討する。 ・前年に視察した岩手国体の資料などから伊賀市会場での会場設営等の設計を行う。	6,078 千円	→



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(57)とH27現状値(55)から2ポイント増となり、H28目標値(57)を達成した。市民活動支援を行うことにより、徐々に意識の醸成が高まっている。
------------------------------------	---

課題と今年度の取組み案【ACTION】 新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
市民活動支援事業 地域活動支援事業を受けた団体が、その後どのように展開して行くか方向性を確認する必要があります。	ビジネスマッチングなどに結びついているかなど調査します。	17,801 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

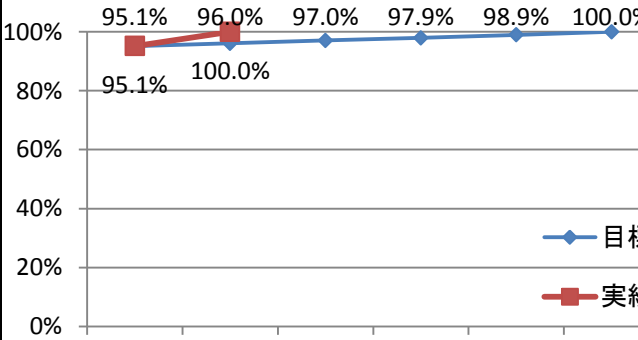
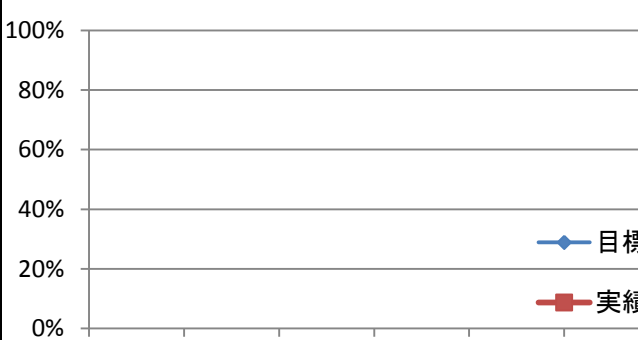
・人口減少、少子高齢化といったまちづくりの諸課題を解決するため、高等教育機関と産業団体、市がより連携を深め、課題解決に向けた取り組みを推進します。

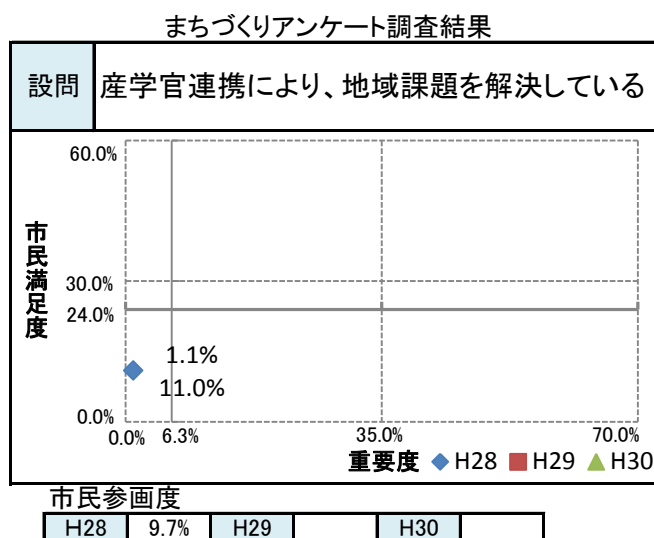
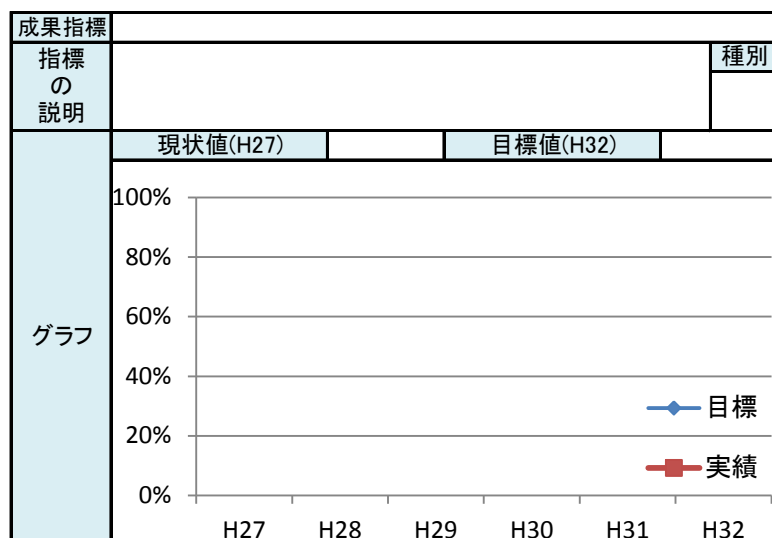
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
産学官連携の推進 三重大学が設置する三重大学地域拠点伊賀サテライトと連携・協力し、市内外での教育・文化・研究の推進を図るとともに、本市のまちづくりについての研究活動を行います。さらに、同大学に加え、多様な知見を本市のまちづくりにつなげていくため、他の大学等との連携・協力を推進します。	・三重大学が自治体とともに地方創生に本格的に取り組むため、平成28年11月に三重大学地域拠点伊賀サテライトが設置された。 ・地域社会の発展、教育・研究の振興及び人材の育成を図ることを目的に近畿大学と連携・協力に関する包括連携協定を締結した。	0 千円
		0 千円
高大連携事業の促進 高等教育機関と連携し、市内中・高校生が本市のまちづくりに参画できるしくみをつくれます。	・地方創生推進交付金を財源とした「Uターンを視野に入れたIGAMONO(伊賀者)育成促進事業」において、高校生を対象としたワークショップを開催した。	6,000 千円
		5,899 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	産学官連携による講座等の参加者							
指標 の 説明	三重大学連携フィールドが主催する講座等への参加者数 (人)			種別				種別
				増				
グラフ	現状値(H27)	1155	目標値(H32)	1214	現状値(H27)		目標値(H32)	
								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(1,219人)とH27現状値(1,155人)から64ポイント増となり、H28目標値(1,166人)を53ポイント上回った。その要因としては、講座が定着してきたことと合わせ、市民にとって魅力ある講座内容であったからだと考えられる。
	まちづくりアンケートの結果は、市民重要度、市民参画度、市民満足度ともに低い、これは市民へのPRや情報提供が不十分であったためだと考えられる。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
産学官連携の推進 伊賀サテライトを伊賀市の課題解決に繋げる具体的な取組みが必要である。	・三重大学関係者、伊賀市、名張市、両市の商工会議所、伊賀市文化都市協会を構成員とする「伊賀サテライト運営委員会」が今年度設置され、今後サテライトで取り組む課題等を協議する予定である。	0千円	→
高大連携事業の促進 大学(三重大、近畿大学等)と連携し、中・高生をまちづくりに参加させる仕組みづくりが必要である。	自ら地域の担い手となる若者(IGABITO)を育成するため、地方創生推進交付金を活用した事業を予定しているが、伊賀市出身の大学生や、連携大学の学生等の事業への参画を検討したい。	0千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

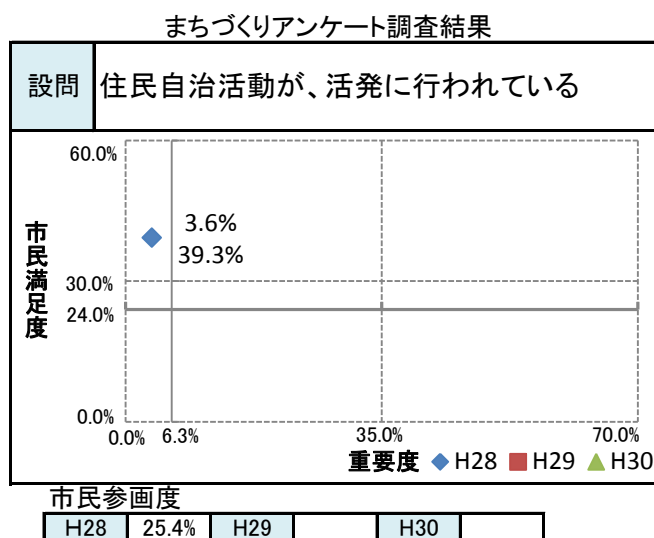
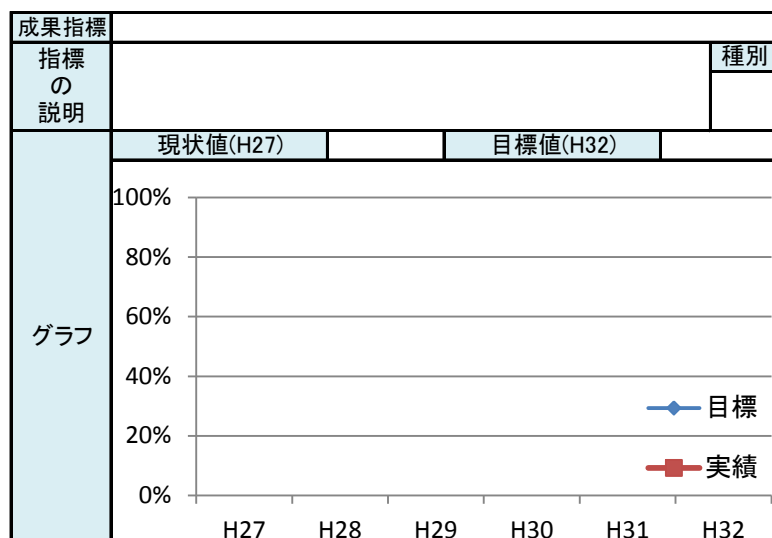
・本市では、伊賀市自治基本条例に基づき、住民自治協議会を中心とした地域内分権のまちづくりを推進しており、市民や地域が、自らの責任のもと、まちづくりの決定や実行を行い、行政はこれらの活動を支援することで、魅力的なまちづくりをめざします。

目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
住民自治促進事業 住民自治協議会が持続可能な活動を行うため、組織の基盤強化と「地域まちづくり計画」の見直し等を目的とした研修会を実施します。あわせて、「地域担当職員」、「地域包括交付金」などの、行政からの人的・財政的支援のあり方を検討します。行政の地域窓口としている地区市民センターについては、住民自治活動拠点となる自治センターとして、指定管理者制度の導入をめざします。	まちづくり計画進行管理マニュアルを策定し進行管理シートの試行期間として運用を行いました。 またH28年度から包括交付金を見直し新積算で交付するとともに、女性活躍推進事業交付金を期間を定め創設しました。	729,047 千円
		756,904 千円
移住・交流促進事業 移住相談についてのワンストップ窓口を設置し、多様な相談に対応できる体制を構築します。また、東京や大阪などでの移住相談会のほか、伊賀市体験セミナーを開催し、移住者や交流人口の増加を促します。住民自治協議会と協働で、地域課題の解決や地域振興の活動を行う、「地域おこし協力隊」の募集を行い、地域の活性化を図るとともに、将来的な隊員の定住をめざします。	移住交流係、移住コンシェルジュを設置し、多様な相談に対応できる体制を構築しました。また、移住交流相談会に参加するとともに交流イベントを実施し地域の魅力を発信しました。さらに、地域おこし協力隊2名を配置し地域振興を推進しました。	12,092 千円
		8,278 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】 増＝単年度の目標（増加を目指す） 減＝単年度の目標（減少を目指す） 累＝累積値の目標

成果指標	地域まちづくり計画を見直した住民自治協議会の数				移住相談等の件数																																													
指標 の 説明	平成22年以降に地域まちづくり計画を見直した住民自治協議 会の数			種別 増	移住コンシェルジュや移住相談会等の延相談件数（件）			種別 増																																										
	現状値(H27)	20	目標値(H32)	38	現状値(H27)	20	目標値(H32)	400																																										
グラフ	<table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>100.0</td><td>52.6</td></tr><tr><td>H28</td><td>100.0</td><td>63.2</td></tr><tr><td>H29</td><td>100.0</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>100.0</td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td>100.0</td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0</td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	100.0	52.6	H28	100.0	63.2	H29	100.0		H30	100.0		H31	100.0		H32	100.0		<table><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td></td><td>5.0</td></tr><tr><td>H28</td><td>91.0</td><td>91.0</td></tr><tr><td>H29</td><td>92.5</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>93.8</td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td>95.0</td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0</td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27		5.0	H28	91.0	91.0	H29	92.5		H30	93.8		H31	95.0		H32	100.0	
	年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27	100.0	52.6																																																
H28	100.0	63.2																																																
H29	100.0																																																	
H30	100.0																																																	
H31	100.0																																																	
H32	100.0																																																	
年度	目標 (%)	実績 (%)																																																
H27		5.0																																																
H28	91.0	91.0																																																
H29	92.5																																																	
H30	93.8																																																	
H31	95.0																																																	
H32	100.0																																																	



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1 H28年度実績値(24)とH27現状値(20)から4ポイント増となり、H28目標値(38)を14ポイント下回った。 八幡町地域の住民自治協議会設立については自治会が中心となり進めて行くことが地域推進委員会において確認されている。
	指標2 H27年度の相談件数が20件であったため、H32年度の目標を400件と定めたが、移住交流係、移住コンシェルジュを設置、また、移住交流相談会等に参加するなどPRを行ったことによりH28年度は364件の実績となった。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
住民自治促進事業 現在38自治自治協議会が設立している。 八幡町地域の住民自治協議会設立については自治会が中心となり進めて行くことが地域推進委員会において確認されており、年度内早期の立ち上げを目指します。	人権生活環境部や上野支所など関係各課と連携し、設立に向けての支援を行います。	475,860 千円	→
移住・交流促進事業 今後もPRを行い移住を進める(誘致)とともに、人的な交流を行うことにより地域に根付いた地域振興(誘置)を図ることが課題となります。	移住コンシェルジュを中心にワンストップ支援を行い、問い合わせ件数を増やし接点を多く持つことで誘致を促進するとともに、着地後のフォローを行うことで、地域との連携を位置づけることにより誘置を推進します。	14,848 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

・補完性の原則に基づき市民や自治組織などの各主体がそれぞれの役割を意識しつつ、連携・協働し、まちづくりを推進します。

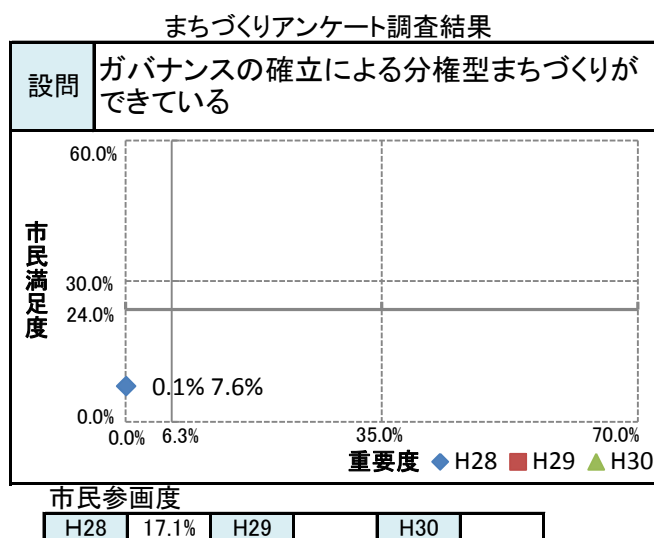
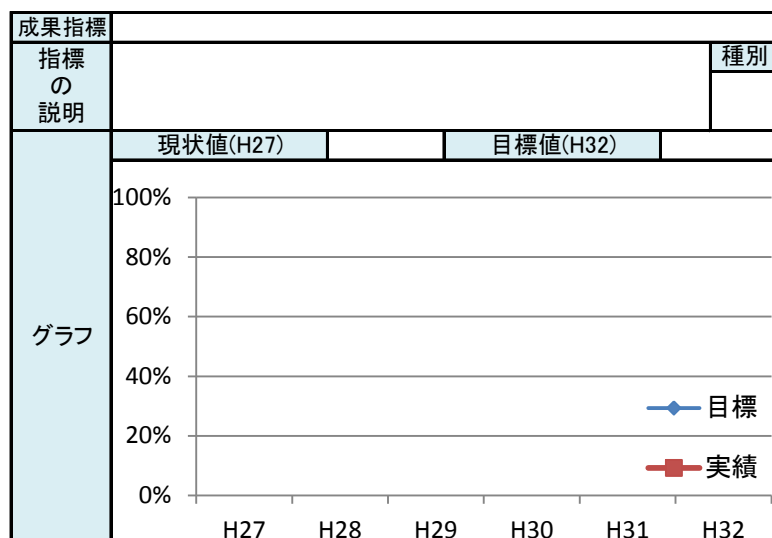
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
自治基本条例の周知・啓発 本市のまちづくりの基本となる伊賀市自治基本条例について、その内容をより多くの市民等へ周知・啓発を行います。また、条例運用上の課題や社会経済情勢等を踏まえ、伊賀市自治基本条例の見直しを行います。	平成28年10月の総合政策会議において、検討部会を設置して見直し検討を進めることが了承された。	0 千円 0 千円
連携・協働によるまちづくりの推進 市民、自治組織、市民活動団体、企業、行政など、地域を支える多様な主体がガバナンスによるまちづくりを行うため各団体等への支援を行うとともに、各主体との情報共有を進めるため、市政懇談会の開催や出前講座などを行います。市と各住民自治協議会等が協働し、策定した各支所単位の地区振興計画については、自治組織や関係団体等と連携し、計画の進行管理や見直しを行います。	・地域活動支援事業補助金等により、地域を支えまちづくりを行う多様な主体に支援を行った。 ・支所単位で地区振興計画の進行管理を行った。	22,356 千円 22,935 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	市民の市政への参加意識				地域活動支援事業制度への応募数			
指標の説明	伊賀市まちづくりアンケート・市政への参加について「積極的に参加したい」「できれば参加したい」と回答した市民の割合(%)			種別 増	地域活動支援事業補助金制度における応募事業数(件)			種別 増
	現状値(H27)	53.5	目標値(H32)	60.0	現状値(H27)	10	目標値(H32)	15
グラフ								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(54.7%)とH27現状値(53.5%)から1.2ポイント減となり、H28目標値(54.0%)を0.7ポイント上回った。その要因は、第2次再生計画策定にあたって、市民への説明会やタウンミーティングなどを行った結果、市政への関心などが増したためであると考えられる。
	指標2は、H28年度実績値(10件)とH27現状値(10件)から増減なかった。その要因は、本制度は各団体が行う持続可能な事業化を支援するものであり、明確な中長期的ビジョンとプランニングを行い、審査会(プレゼンテーション)を経て事業採択判定を行うこととなっている。事業化に向け検討しているが、事業プランの精度が上らず申請に至らなかった団体もあることから、実績数値の増減がなかったと考えられる。

まちづくりアンケートの結果は、市民満足度、市民重要度、市民参画度のいずれも低い、これは市民への周知等が不十分なためだと考えられることから、第2次再生計画策定後、市民へ周知を図りたい。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
自治基本条例の周知・啓発 前回の改正から課題となっているものを検討する必要がある。	これまでからの課題を検討するとともに、新市建設計画終了に合わせた大幅な改正に向けて、改正方針を定める。	0 千円	→
連携・協働によるまちづくりの推進 地区振興計画が今年度で終了することから、次期計画について検討する必要がある。	地区振興計画に基づき実施する事業を対象としている地区振興補助金と合わせて検討する。	14,888 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

- ・市民が、知りたい市の情報を早く・簡単・正確に入手できます。また、それらの情報を有効に活用することで、市政に積極的に参加できます。
- ・本市の魅力を高め、発信することにより、認知度、好感度を向上させるとともに、市民の定住意識を高めます。

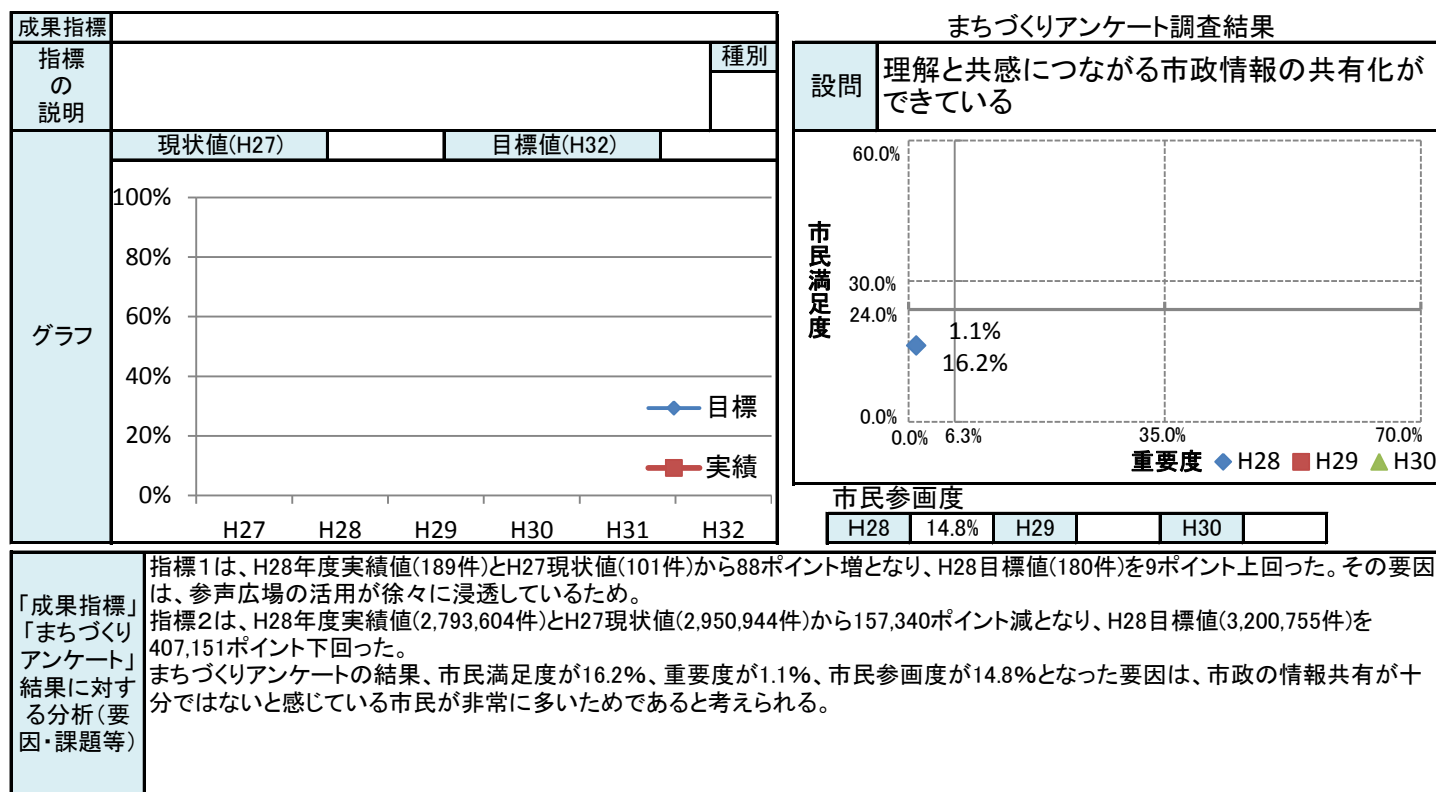
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算 H28決算見込
広聴機能の充実 新たな広聴手法を研究し、市民がより一層市政に参加できる機会の創出を図ります。ホームページのお問い合わせ機能（参声広場）等を活用し、市民の声とそれに対する市の考えをホームページ上で公開して情報を共有しつつ市政への反映を推進します。伊賀市まちづくりアンケートをはじめ、各種アンケートを実施するとともに、ニーズを的確に把握するための手法の改善に取り組みます。	・新しいホームページにおいて参声広場の機能を継承し、市政に参加できる機会を創出した。 ・市の施策や計画を策定するときは、タウンミーティングやパブリックコメントを実施し、市民の声を反映するようにした。	0 千円 0 千円
広報活動の充実 情報通信技術の利活用により必要な行政情報や行政サービスを市民が等しく受けることができるよう、情報通信環境の整備を促進します。広報いが市、行政情報番組、ホームページ、SNSなどの多様な広報メディアやさまざまな手法により、効果的に市内外に向けた情報発信を行います。すべての画面での多言語対応や文字サイズの拡大機能の付与など、だれにでも利用しやすいホームページに改修します。	・誰もが使いやすく親しみやすいホームページに改修した。（多言語・スマートフォン対応など） ・重点施策の情報発信強化として広報いが市に「伊賀市の今」のコーナーを新設した。 ・スマートフォンアプリ「マチイロ」に登録し市民の利便性を向上した。	79,141 千円 74,544 千円
シティプロモーションの推進 多様なメディアやツール、手法を戦略的に組み合わせることでシティプロモーションを実施することで本市の知名度やイメージを向上させるとともに、選ばれるまちとしての本市のイメージ・ブランドを確立し、さらなる魅力度向上をめざします。戦略的なシティプロモーションを実施するため推進計画を策定します。	・内閣府の認定を受けた平成30年度までを期間とする地域再生計画「ひとが輝く・地域が輝くシティプロモーション事業」の初年度として、市民向けワークショップ、現状棚卸し分析、地域経済シミュレーション等を実施し、伊賀市シティプロモーション指針等を策定した。	23,974 千円 108,258 千円
情報公開・個人情報保護の適正運用 伊賀市情報公開条例に基づく情報公開制度の適正な運用を図ります。伊賀市個人情報保護条例に基づく個人情報保護制度の適正な運用を図ります。	・昇格した管理職員や新規採用職員に対し、情報公開・個人情報保護の研修を開催し、適正な運用を図った。	0 千円 0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標（増加を目指す） 減 = 単年度の目標（減少を目指す） 累 = 累積値の目標

成果指標	参声広場での意見・問い合わせ件数				ホームページアクセス件数																																													
指標 の 説明	参声広場から寄せられた意見・問い合わせ件数（件）			種別	市公式ホームページの各ページへのアクセス総数（件）			種別																																										
				増				増																																										
グラフ	現状値(H27)	101	目標値(H32)	800	現状値(H27)	2950944	目標値(H32)	4200000																																										
	<table><caption>参声広場での意見・問い合わせ件数（目標と実績）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>12.6%</td><td>12.6%</td></tr><tr><td>H28</td><td>22.5%</td><td>23.6%</td></tr><tr><td>H29</td><td>41.9%</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>61.3%</td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td>80.6%</td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	12.6%	12.6%	H28	22.5%	23.6%	H29	41.9%		H30	61.3%		H31	80.6%		H32	100.0%		<table><caption>ホームページアクセス件数（目標と実績）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>目標 (%)</th><th>実績 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H27</td><td>70.3%</td><td>70.3%</td></tr><tr><td>H28</td><td>76.2%</td><td>66.5%</td></tr><tr><td>H29</td><td>82.2%</td><td></td></tr><tr><td>H30</td><td>88.1%</td><td></td></tr><tr><td>H31</td><td>94.1%</td><td></td></tr><tr><td>H32</td><td>100.0%</td><td></td></tr></tbody></table>				年度	目標 (%)	実績 (%)	H27	70.3%	70.3%	H28	76.2%	66.5%	H29	82.2%		H30	88.1%		H31	94.1%		H32	100.0%	
	年度	目標 (%)	実績 (%)																																															
H27	12.6%	12.6%																																																
H28	22.5%	23.6%																																																
H29	41.9%																																																	
H30	61.3%																																																	
H31	80.6%																																																	
H32	100.0%																																																	
年度	目標 (%)	実績 (%)																																																
H27	70.3%	70.3%																																																
H28	76.2%	66.5%																																																
H29	82.2%																																																	
H30	88.1%																																																	
H31	94.1%																																																	
H32	100.0%																																																	



課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
広聴機能の充実 ・各種計画策定時におけるパブリックコメントやホームページからの意見募集など、市民が意見を提案できる機会を創出していますが、多くの市民が活発に意見を提案するまでには至っていません。	・施策や計画を策定する際など市民の声をより反映できるよう「市政に関する情報を市民と共有するための指針」の見直しを検討する。 ・様々なメディア・手法による広聴の機会を作るとともに、直接市民と意見交換を行うタウンミーティングの開催を定着させ、市民の声を聴く機会の充実を図る。	0 千円	→
広報活動の充実 ・市職員の広報力、情報発信力が低い。	・市の情報発信力を高めるため、引き続き職員を対象とした研修を実施する。 ・多様な広報メディアや様々な手法により、市内外に向けた効果的な情報発信に取り組む。	77,263 千円	→
シティプロモーションの推進 ・各種事業に取り組むため、庁内の推進体制を整備する必要がある。	・伊賀市シティプロモーション指針に基づき、伊賀市が展開する観光プロモーションの効果検証・分析を行うとともに、市民参加型ワークショップを開催し、それらを踏まえた指針の見直し等を行う。 ・シティプロモーションを効果的に実施するための庁内体制を検討する。	83,425 千円	→
情報公開・個人情報保護の適正運用 ・引き続き情報公開・個人情報保護の適正な運用を図っていく必要がある。	・引き続き、昇格した管理職員や新規採用職員に対し、情報公開・個人情報保護の研修を開催し、適正な運用を図る。	0 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当部局】

財務部

- ・簡素で効率的な財政運営をめざします。
- ・申告等が行いやすい環境を整えることをめざします。
- ・口座振替の推進や納付場所や納付時間の拡大、通訳兼納税相談員の雇用など、納付環境の充実に努め、市民の税負担の公平性を高めます。
- ・適正な債権管理を行い、健全な財政運営に寄与していきます。

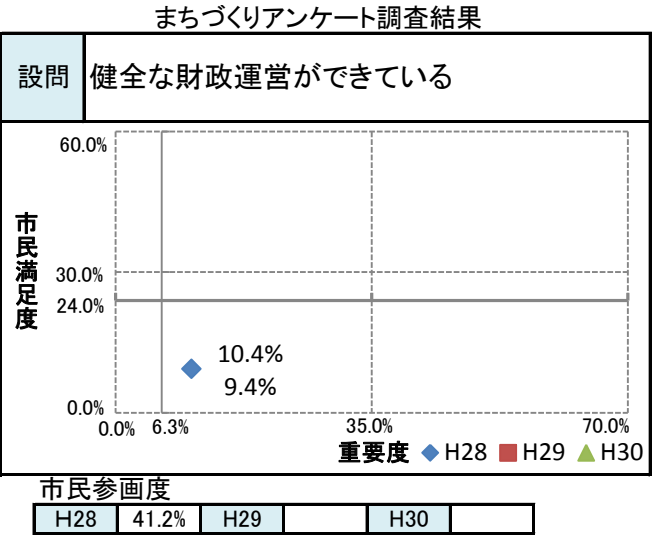
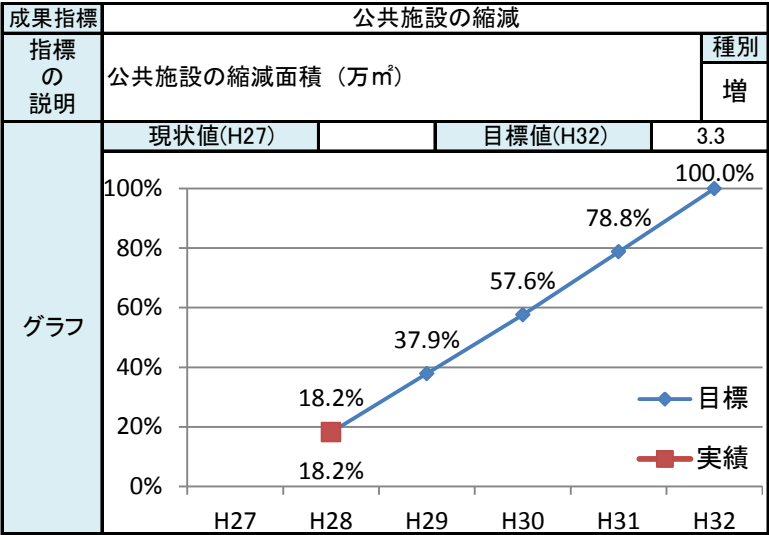
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
持続可能な行財政運営の推進 一般財源の規模に見合う適正な歳出規模を堅持し、簡素で効率的な財政運営をめざして、市債発行の抑制に配慮した予算編成に努めるなど、財政運営の改革に取り組みます。公平・適正な負担を求め、その負担に見合う、質の高い施設、イベントなどの行政サービスを提供します。補助金等を財源とする団体には、自主的な運営を促します。	予算編成に際しては、実施予定事業を継続・再構築、新規・重点、単年度に区分し、一般財源の配分を行った。	994,160 千円 961,484 千円
公有資産の有効活用 伊賀市公共施設最適化計画に基づく実行計画を遂行し、施設の最適な配置と管理運営に努めます。公有財産については、将来の必要性を十分に見極めたうえで、普通財産の売却処分や、貸付による有効利用を推進します。	ファシリティマネジメント推進会議を開催し、公共施設の縮減・複合化に向け検討を行いました。 また、普通財産の売却処分、貸付による有効活用の推進に努めた。	3,793,258 千円 3,154,085 千円
税収の確保と各種債権の適切な管理 市民税・固定資産税ともに実地調査により課税客体を的確に把握することにより、法令を遵守した市民の税負担の公平性を高めます。市税収納率の向上に向け、納付環境の充実に努めるとともに、あらゆる収納対策を講じ市税の滞納額の縮減に取り組みます。各種市債権について、効率的な処理体制の構築、処理基準の整備を行い、適切な管理を進めます。	・固定資産税の課税客体把握に特に注力した。 ・伊賀市債権管理条例等の例規と債権管理マニュアルを整備した。 ・債権回収事務の移管と債権放棄の審査を開始した。	270,967 千円 315,741 千円
その他増収策の推進 行政財産の使用許可として、公共施設の余裕スペースを活用した広告付き案内板等の公募を推進します。さらに、広告収入、ふるさと納税などの各種増収策の検討・推進を図っていきます。ネーミングライツ、公共によるクラウドファンディングといった資金調達方法の活用などの取り組みについても検討していきます。	広告付き案内板等やネーミングライツの公募については、実施していません。候補場所や施設等を選定し、29年度において公募する予定である。	0 千円 0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	起債残高の減少額				滞納繰越債権の減少額			
	種別			減	種別			減
指標の説明	全会計起債残高 (元利計: 億円)				滞納繰越債権保有額 (千万円)			
	現状値(H27)	996	目標値(H32)	890	現状値(H27)	286	目標値(H32)	200
グラフ								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(991億円)とH28目標値(991億円)を達成した。合併特例債発行期限の平成31年度までは一般会計で一時的に増加することが想定される。

指標2は、H28年度実績値(264千万円)とH27現状値(286千万円)から12ポイント減となり、H28目標値(268.8千万円)を4.8ポイント上回った。その要因は、債権管理の推進を掲げ、債権管理課発足と債権管理条例等の施行など、全庁で意識向上に繋がる初年度であったためと考えられる。ただし、今後も成果を上げていくためには、更なる意識向上が課題である。

指標3は、H28年度実績値(0.6万㎡)とH28目標値(0.6万㎡)を達成した。アクションプラン初年度の平成27年度において、積極的な取り組み(縮減)が行えた。

まちづくりアンケートの結果、重要度・市民参画度は比較的高く、市民満足度がかなり低い。税や公共施設などの市民生活に直結した課題をはじめとして、持続可能な行財政運営の実現に向けた取り組みがいっそう求められているものとする。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
持続可能な行財政運営の推進 ・普通交付税の合併算定替の特例期間が終了したことや生産年齢人口の減少などによる歳入減、一方、高齢化の進展に伴う社会保障関係費やインフラ資産を含めた施設の老朽化対応などにかかる歳出増が想定される。	・施設や事業の整理統合による行政運営の効率化に引き続き取り組む。実施していく事業に優先順位をつけ、国・県などの補助事業についてはそれに伴う市負担額を、当該年度はもちろんのこと中期的に検討することが必要である。	958,088 千円	→
公有資産の有効活用 ・公共施設の縮減、複合化については、残された施設の利活用に伴う改修・撤去費用が多額となると、財政的な負担が生じる。有効的かつ財政負担を生じさせないように取り組まなければならない。	・実行計画に基づいた縮減、複合化を推進するために、プロジェクトチームを設置して、多角的な検討を深める必要がある。ファシリティマネジメント推進会議を有効的に活用することで、市有財産の売却処分を含めた適切な財産管理を図っていく。	2,758,341 千円	→
税収の確保と各種債権の適切な管理 ・各債権所管課に対して、債権管理への意識と事務スキルの向上を促していく取組みが必要である。	・各債権所管課に定期的に赴き、各課実務の状況と改善点を把握して、実践的な研修や指導を行うことによって、債権管理事務の向上に繋げていく。 ・庁内に対し、随時、「SAIKEN通信」を発行し、債権管理に対する認識の向上に向け、啓発をしていく。	210,560 千円	↑
その他増収策の推進 ・ネーミングライツに関しては、数年前に公募を行ったが、応募がなかった。来場者が多い施設等を選定して、積極的にPRする必要がある。	・平成33年度において、『三重とこわか国体』が開催されることを追い風と考えて、積極的に民間企業等へのPRを行う。	0 千円	↑

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

総務部

- ・組織に働くもののすべてが、市民目線・市民感覚を大切に、目的・成果、恒常的な改善・改革に取り組む意識を持った職員を育成します。
- ・新たな行政課題に対し、他部署との横断的な連携を図るなど、優先課題に迅速に取り組める組織を構築します。

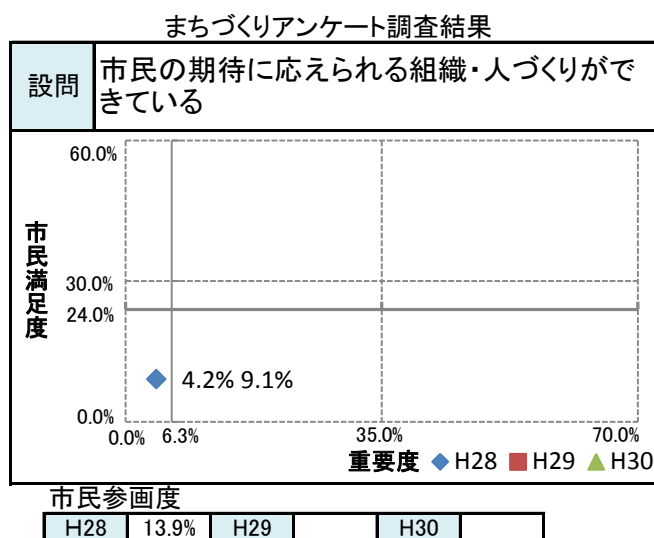
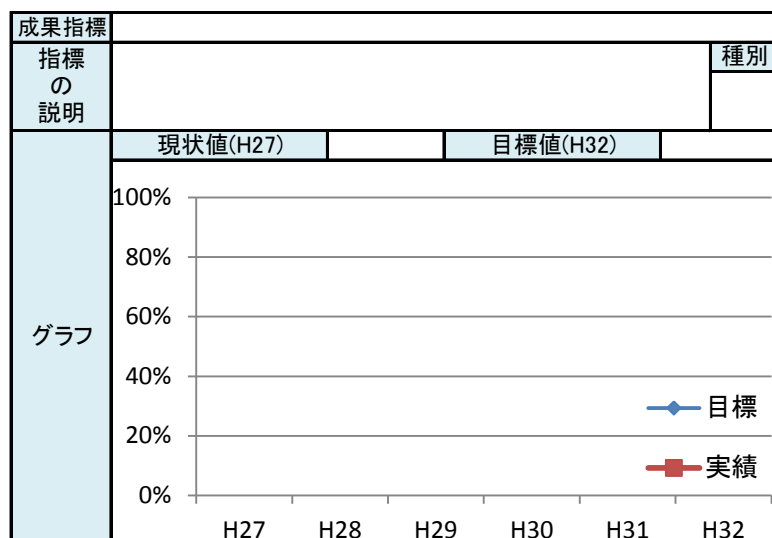
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
人事制度・人材育成方法の構築 市民の期待に応じて良質な住民サービスが提供できる職員の育成をめざし、採用、人事評価、昇格試験、複線型人事、職員研修、給与など、さまざまな人事制度の検証・構築・運用を推進します。	・平成27年度に実施した人事評価結果(管理職)を平成28年6月の勤勉手当率に反映させた。 ・主幹級職員を対象として課長職への昇任試験を実施した。 ・市民サービス向上のため、市独自の研修の実施や専門的な研修のため研修機関へ職員を派遣した。	43,543 千円
		36,525 千円
行政組織(機構)の見直し 市の政策・施策が効率的に推進できるよう、新庁舎整備後も視野に入れて、適正な組織機構の改編を行います。	・水道部と建設部下水道課を統合し、上下水道部を設置した。 ・総合政策課に企画調整係と地方創生推進係を設置した。	0 千円
		0 千円
業務改善の推進 新庁舎供用開始時の組織機構改編にあわせて、総合窓口を設置するための準備を進めます。今後80名の正規職員の削減をめざすとした伊賀市定員管理方針に基づき、民間活力の活用など業務の改善に取り組むとともに、当市の経営資源を効率的に活用するため、委託可能な業務の外部委託を推進します。	平成29年10月1日開始の住民課窓口業務委託について、公募型プロポーザルを実施した。	0 千円
		0 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	第三者機関による電話応対診断の評価点							
	調査員による電話応対の診断評価点の平均値			種別				種別
	現状値(H27)	74.5	目標値(H32)	80.0	現状値(H27)		目標値(H32)	
グラフ	100% 93.1% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 80% 93.1% 93.4% 60% 40% 20% 0%				100% 80% 60% 40% 20% 0%			
	H27 H28 H29 H30 H31 H32 目標 実績				H27 H28 H29 H30 H31 H32 目標 実績			



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、H28年度実績値(74.7)とH27現状値(74.5)から0.2ポイント増となったが、H28目標値(80.0)を5.3ポイント下回った。前年度の診断評価が低かった部署を中心に再調査をしたので、平成28年度の講評(研修)で一定の改善が見られた。職場では、行政の情報が必要とする市民への情報提供であったり、場合によってはクレーム対応となる場合があるため、常に執務能力の向上とともに、真摯な態度で対応することが課題である。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
人事制度・人材育成方法の構築 ・多様化する市民ニーズに的確に対応するためには、職員個々の専門的知識や資質の向上を図る必要がある。・昨年度より部署間での偏りは縮小したものの、更なる人事評価に対する研修が必要となっている。・全ての職員の「働き方改革」によるワークライフバランスを実現する必要がある。	・職員研修の実施にあたっては、自己啓発を基本に、職場研修と職場外研修とを相互に補完させるとともに、職員の研修ニーズを把握しながら、研修内容の充実を図る。 ・研修予算の確保が厳しいことから、派遣研修については、JIAMや三重県市町総合事務組合など公的研修機関が主催する経費を抑制できる研修を利用する。	38,073千円	→
行政組織(機構)の見直し ・適正な人員配置が図れる合理的な組織づくりのため、見直しを行う。	・本庁と支所のあり方について、職員定数を勘案しつつ、支所配置職員の削減を進める。 ・新庁舎の入居定員を勘案するとともに、上野支所の機能についても検討する。 ・新庁舎へのスムーズな移転に向け、執務スペース計画や什器配置計画と合わせつつ進める。	0千円	→
業務改善の推進 ・住民課窓口業務の民間委託は伊賀市にとって初めての取り組みとなるため、市民サービス水準の向上につなげる必要がある。	住民課窓口業務以外においても、民間委託等の手法によって市民サービス水準の向上が図れないか検討する。	0千円	↑

7-2-3
広域連携

圏域全体の活性化につながる
広域的な連携

優先度

A

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【担当当局】

企画振興部

・近畿圏・中部圏の接点となる本市では、三重県内各市町に加え、京都府、滋賀県、奈良県などの各自治体と府県境を越えた地域間連携に取り組み、圏域全体で人口定住、三大都市圏からの人口流入の受け皿となるよう、伊賀圏域の中心都市としての役割を担います。

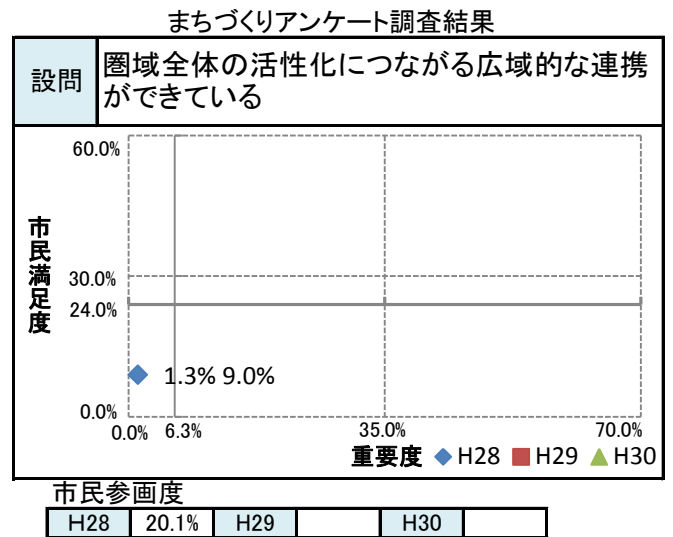
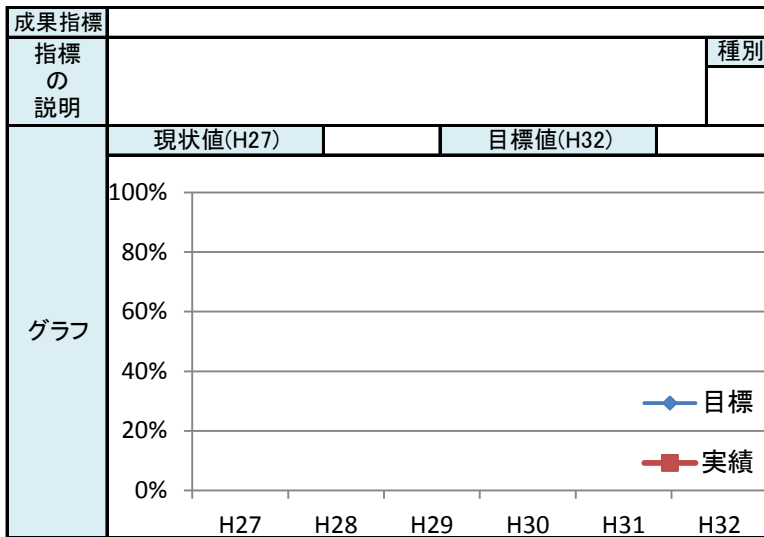
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
広域連携の推進 伊賀圏域全体の生活・経済機能を高め、持続可能なまちづくりに向けて設置している、名張市との一部事務組合については、両市の意向や社会経済情勢などを踏まえ、広域連携のあり方等を検討します。各自治体の政策課題等に対応するため、県境を越えて連携し、設置している「伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議」では、具体的な連携事業の実施など、取り組みを深化させるため、各自治体との連携・調整を進めます。	・農業共済事務が県内で一本化されたことから、名張市との一部事務組合について29年度以降の体制等の検討を行った。 ・「伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議」における8つの部会において、それぞれの課題や取組方法等について検討した。	5,855 千円
		5,550 千円
定住自立圏推進事業 本市を中心市とした定住自立圏の推進については、圏域全体における人口ダムの形成を推進するため、京都府笠置町、南山城村と締結した定住自立圏形成協定に基づく「伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョン」により、連携・協働して各種施策に取り組みます。さらに他の近隣市町村に対しては、圏域形成への参画について引き続き働きかけます。	平成28年10月4日締結した「伊賀・山城南定住自立圏形成協定」に記載した各施策を具体的に推進するために必要な「定住自立圏共生ビジョン」の策定に向け懇談会を設置し、中間案を策定した。	1,696 千円
		368 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	近隣自治体人口減少率				他の自治体との共同事業件数			
	指標の説明	現状値(H27)	目標値(H32)	種別 減	指標の説明	現状値(H27)	目標値(H32)	種別 増
グラフ	定住自立圏構想、一部事務組合で連携する自治体(伊賀市、名張市、笠置町、南山城村)の各地方版総合戦略の平成32年人口目標値合計/同関係自治体平成27年国勢調査人口合計 (%)				定住自立圏形成協定に基づいて取り組んだ事業数 (件)			
		現状値(H27)	目標値(H32)	-7.1		現状値(H27)	0	45
グラフ								
	100.0% 80% 60% 40% 20% 0% H27 H28 H29 H30 H31 H32 目標 実績				100.0% 80% 60% 40% 20% 0% 0.0% 0.0% 11.1% 44.4% 66.7% H27 H28 H29 H30 H31 H32 目標 実績			



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、国勢調査の人口がベースとなっていることから、H28～H31年の値が出せない。
	指標2は、定住自立圏共生ビジョンの策定が29年度に入ったことから、28年度の実績はない。
	まちづくりアンケートの結果、市民満足度、市民重要度ともに低い、これは広域連携の必要性や効果がわかりにくいことが原因であると考えられるため、市民への周知や具体的な効果を示す必要がある。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
広域連携の推進 ・広域事務組合での事業が縮小傾向であることから、今後の組合のあり方について検討する必要がある。 ・伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議は4年目となることから、具体的な施策の実施を図る必要がある。	・企画幹事会等で検討を始める。 ・具体的な事業実現に向け、部会において事業計画を作成し、実施していく。	16,356千円	→
定住自立圏推進事業 定住自立圏共生ビジョンを決定・公表し、具体的な取組を進めていく必要がある。	6月に推進協議会でビジョンを確定し、公表する。その後、部会を開催し具体的な事業を推進していく。	466千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

企画振興部

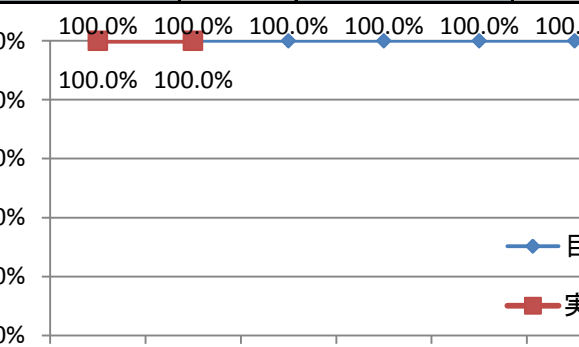
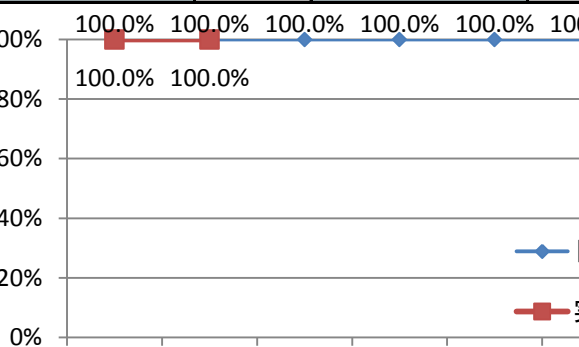
・ICTの活用により市民サービスの向上と業務の効率化を図り、市民がICTの恩恵や利便性を享受できるとともに、情報セキュリティが確保され、市の保有する個人情報保護します。

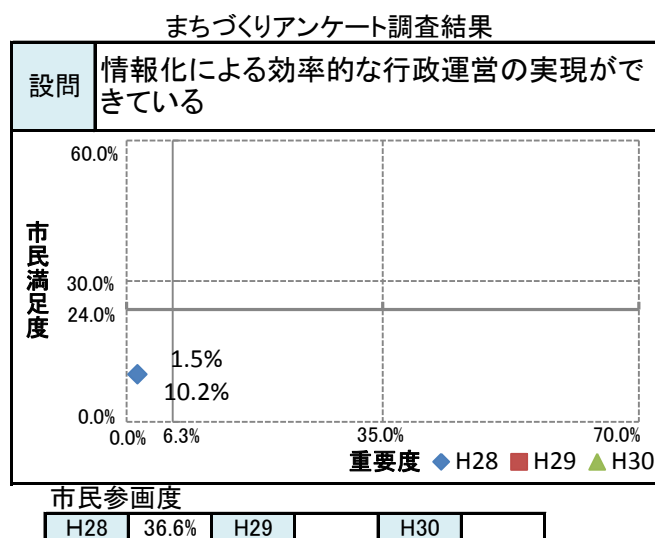
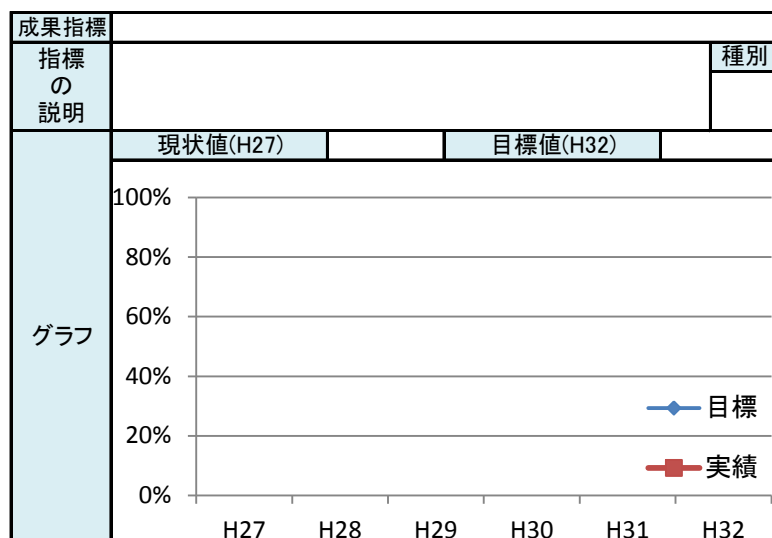
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
行政事務の情報化の推進 行政サービスの高度化、行政運営の効率化、情報セキュリティの向上をめざして情報化を推進します。マイナンバー法に対応するため関係システムの改修・構築を行います。総務省の方針に従い情報システムの強靱化対策（ネットワークの分離・基幹系システムへの二重認証導入）を実施します。内部情報系システムについて、公会計導入に合わせ新システムの導入を進めます。	・マイナンバー法のシステム改修を実施した。 ・事務の効率化と経費節減を図るため、平成28年度に公募型プロポーザルにより統合型クラウド内部情報システムの導入業者を選定した。 ・総務省の方針に従いセキュリティ強靱化対策を実施した。	410,553 千円
		444,364 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標（増加を目指す） 減 = 単年度の目標（減少を目指す） 累 = 累積値の目標

成果指標	システム安定稼働率				セキュリティ事故無発生率							
指標 の 説明	年間安定稼働時間/年間提供時間×100(計画停止時間を除く)(%)			種別 増	無事故日数/365日×100(%)			種別 増				
	現状値(H27)	100.0	目標値(H32)	100.0	現状値(H27)	100.0	目標値(H32)	100.0				
グラフ												
	100% 80% 60% 40% 20% 0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 目標 実績				100% 80% 60% 40% 20% 0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 100.0% 目標 実績							
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H27	H28	H29	H30	H31	H32



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)	指標1は、H28年度実績値(100.0%)とH27現状値(100.0%)から増減がなかった。その要因は、昨年度に引き続きシステム安定稼働率100%であるため。
	指標2は、H28年度実績値(100.0%)とH27現状値(100.0%)から増減がなかった。その要因は、昨年度に引き続きセキュリティ事故無発生率100%であるため。
	まちづくりアンケートの結果、市民満足度が10.2%、重要度が1.5%、市民参画度が36.6%となった要因は、市の内部事務システムに関するものであり、あまり身近に感じられないためであると考えられる。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初 予算	成果の 方向
行政事務の情報化の推進 ・新庁舎建設に伴い、本庁・各支所等の最適なネットワークを構築する。 ・個人情報・情報システム等を保護するため情報セキュリティの向上を目指す。	・新庁舎整備に併せ関係各課と協議し、各課のプリンタの複合化など将来にわたる維持管理・更新コストの縮小に努めていく。 ・情報セキュリティの意識を高めるため、職員に研修を行う。 ・三重県が整備する情報セキュリティクラウドに参画する。	387,558 千円	→

誇れる・選ばれるまちづくりの視点【PLAN】

【主担当部局】

総務部

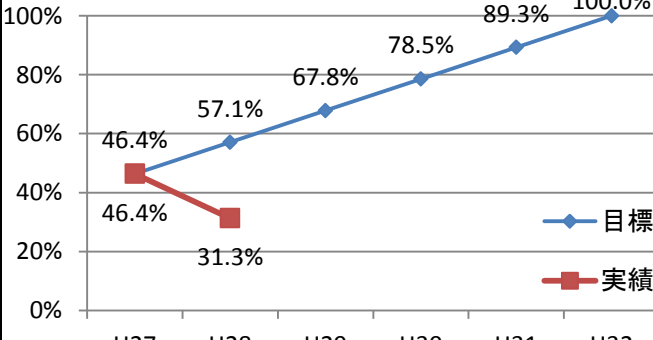
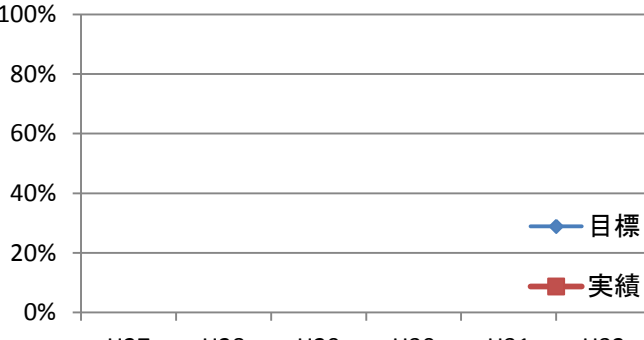
・第2次伊賀市総合計画(基本構想・再生計画)を市民や地域における各主体、行政が共有する計画と位置づけ、補完性の原則のもと、各主体が連携・協力しつつ、わかりやすい進行管理によって、市民が主体となったまちづくりを行います。

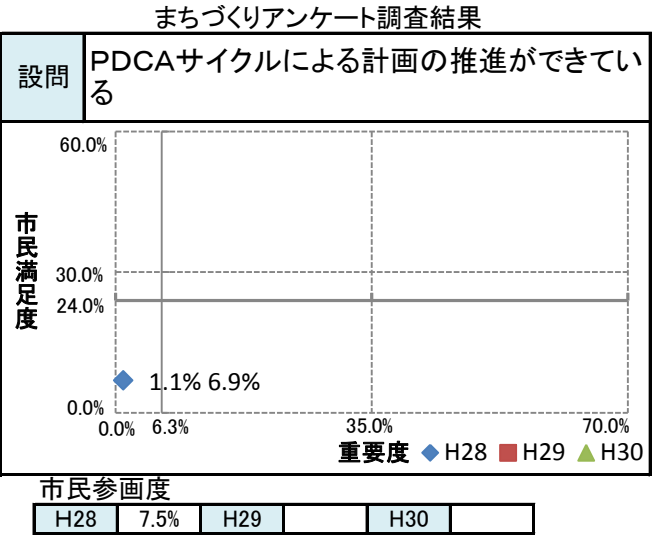
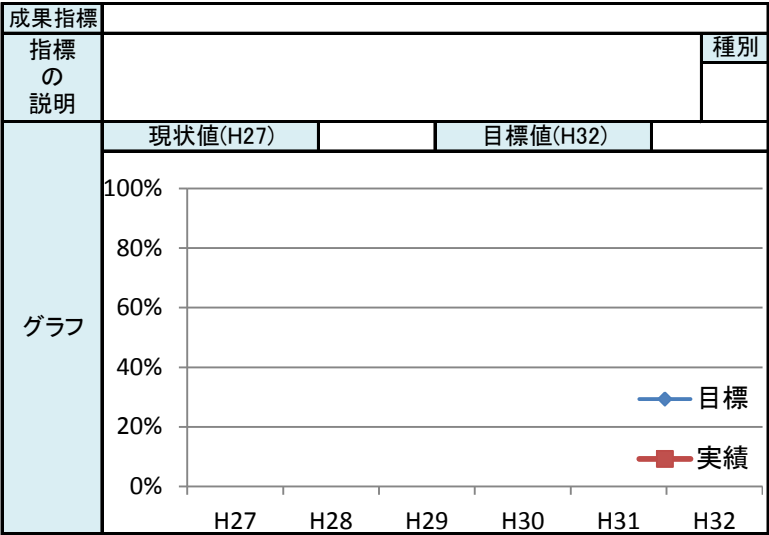
目標達成のための前年度の主な取り組み【DO】

基本事業	何を・どうした	H28当初予算
		H28決算見込
行政総合マネジメントサイクルの推進 行政総合マネジメントシステムでは、市の政策・施策を効果的・効率的に進めるためのしくみとして、行政経営方針を決定する会議や行政評価を行います。施策評価は、各施策の現状や進捗状況を確認し、事務事業の検証や重点化を行います。事務事業評価は、市民サービス向上、コストの縮減、民間活力の導入などに向けた改善策や取り組みの方向性を示し、整理合理化を行います。	・平成28年度から、事務事業評価を「各種決算に係る主要施策の成果報告書」としてまとめ、決算に関する資料として議会で活用すると同時に公表した。また、施策評価については前年度に引き続き、「行政経営報告書」として公表した。	370 千円
		308 千円
総合計画等の適切な進行管理 市民へ再生計画の進捗状況をわかりやすい内容で公表するとともに、市民の意識を把握し、伊賀市総合計画審議会での政策・施策の評価・検証も踏まえ、総合計画の進行管理や関連する総合戦略の進行管理を行います。	・平成28年度から、行政が実施した内部評価(施策評価)について検証・評価を行う、総合計画審議会による外部評価を、「職員の意識改革」「アカウンタビリティの向上」を目的に試行的に実施した。	9,361 千円
		22,573 千円

目標の達成状況と結果分析【CHECK】

増 = 単年度の目標(増加を目指す) 減 = 単年度の目標(減少を目指す) 累 = 累積値の目標

成果指標	市の各種事業について、進行管理ができていると思う市民の割合							
指標 の 説明	伊賀市まちづくりアンケートにおいて「そう思う」「やや思う」と回答した市民の割合（％）		種別				種別	
			増					
グラフ	現状値(H27)	10.2	目標値(H32)	22.0	現状値(H27)		目標値(H32)	
								



「成果指標」「まちづくりアンケート」結果に対する分析(要因・課題等)

指標1は、本施策についてのまちづくりアンケート結果の「市民満足度」であり、H28年度実績値(6.89%)とH27現状値(10.20%)から3.31ポイント減となり、H28目標値(12.56%)を5.67ポイント下回った。また、まちづくりアンケート結果の重要度は1.1%、市民参画度は7.5%とこちらも低い数字となった。その要因は事業内容や目的が市民に認識されていないことと考えられるため、「行政経営報告書」「成果報告書」をよりわかりやすい表現で記載すること、またその周知方法について改善が必要と考えられます。

課題と今年度の取組み案【ACTION】

新規 = 新規 ↑ = 拡充 → = 継続 ↓ = 縮小 × = 休廃止

課題	課題解決に向けた新たな取組み、見直し・改善案	H29当初予算	成果の方向
行政総合マネジメントサイクルの推進 「各種決算に係る主要施策の成果報告書」は情報量が多く利用しにくいものとなってしまったため、必要性の観点から様式を見直す必要がある。	「事務事業評価」「施策評価」の様式を見直し、書き手からも読み手からも利用しやすいものにする。また、職員を対象に行政評価研修を行うことで、記載内容をより充実させる。 また、ACTION(改善・改革)を促進させる取り組みとして、「インセンティブ予算制度」を開始する。	671 千円	↑
総合計画等の適切な進行管理 総合計画審議会による外部評価を初めて実施したため、対象施策が6つと少なくなってしまった。	第2次再生計画の初年度かつ総合計画審議会委員の改選がありますが、委員を対象とした勉強会を行うなどすることで、外部評価の対象施策数を増やす。	159,539 千円	→